

大日本帝國憲法說明

特49

465

特49

465

有所權版

大日本

帝國

憲法說明全

樞密院顧問官伯爵

勝安芳君 題辭

帝國大學法科大學教頭法學博士

鳩山和夫 序文

帝國大學院法學士

中野省吾 解釋

明治廿二年二月

君忠所藏版

大日本  
帝國憲法說明全

樞密院顧問官伯爵勝安芳君題辭  
帝國大學法科大學教頭法學博士鳩山和夫君序（版權所有）  
帝國大學院法學士中野省吾君解釋

明治廿二年二月

君忠所藏版

草

草

草

草

SHIJI

新編市憲法序

山田



憲法說明序

勅聖文武

皇帝陛下ハ茲ニ紀元二千五百四十九年二月十一日憲法ヲ  
發布シ以テ臣民ニ參政ノ權ヲ附與セラレタルニ因リ其優  
渥ナル恩澤ニ浴スル日本臣民ハ古今未曾有ノ境遇ニ出會  
セリ凡ソ權利ハ責任ト相伴フモノニシテ一ノ權利ヲ得ル  
ハ一ノ責任ヲ加フルナリ故ニ帝國臣民ハ參政權ヲ得タル  
ト同時ニ重大ナル責任ヲ負擔スルニ至レリ帝國臣民タル  
者ハ須ラク十分ニ此ノ責任ヲ盡シ一ハ以テ  
聖恩ノ優渥ナルニ對シテ其萬一ヲ報シ奉リ一ハ以テ各自

ノ本分ヲ全フスベシ而シテ此ノ責任ヲ盡サントスルニハ  
先ヅ明ニ憲法ノ條文ヲ解シ其精神ニ通ゼサル可ラス是レ  
憲法説明ノ要アル所以ニシテ亦余ガ知友ナル中野省吾  
君ノ此ノ著アル所以ニ歎蓋シ君嘗テ帝國大學ニ在ルノ日  
法學ヲ研究シテ其精華ヲ撮ミ業已ニ成ルノ後大學院ニ入  
リ尙斯學ノ蘊奧ヲ極ム君ニシテ此著アル誠ニ偶然ニアラ  
サルナリ而シテ當時君ガ同窓ノ友人ニシテ現ニ社會樞要  
ノ事務ニ當ル所ノ某學士ノ如キモ亦君ノ業ヲ贊助シタリ  
ト聞ク此ノ著ノ世ニ出ヅルノ後帝國ノ臣民ヲシテ其重大  
ナル責任ノ在ル所ヲ知リテ以テ千載一遇ノ盛時ニ處スル

ノ道ヲ盡スヲ得セシムルノ利必ズヤ小小ニアラサルベキ  
ナリ

明治二十二年二月

法學博士 鳩山和夫 識

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟  
神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ  
顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ内ハ以  
テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ  
永遠ニ遵行セシメ益國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶

福ヲ増進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ  
皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナ  
ラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ

洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ  
此ノ憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ庶幾クハ  
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ  
祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ  
不磨ノ大典ヲ宣布ス  
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ



帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト并ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ

行フゴトヲ懲ラサルヘシ  
朕ハ我臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此  
ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘ  
キコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時  
ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ  
將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ク  
見ルニ至ラハ朕及朕カ繼續ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ  
議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議  
決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコト

ヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任  
スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從  
順ノ義務ヲ負フヘシ

### 御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆  
樞密院議長 伯爵伊藤博文  
外務大臣 伯爵大隈重信

海軍大臣 伯爵西郷從道  
 農商務大臣 伯爵井上馨  
 司法大臣 伯爵山田顯義  
 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義  
 陸軍大臣 伯爵大山巖  
 文部大臣 子爵森有禮  
 遞信大臣 子爵榎本武揚

(參照) 明治十四年十月十二日ノ大詔(國會開設ノ大詔)

勅ニ曰ク朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬シ又夙ニ立憲ノ政体ヲ建テ後

世子孫繼グベキノ業ヲ爲サント期ス嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸次基ヲ創メ序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非ザルハ莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセソ  
 願ミルニ立國ノ体國各宜キヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揚ゲ洪摸ヲ弘メ古今ヲ變通シ斷シテ之ヲ行フ責朕ガ躬ニ在リ將ニ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ朕ガ初志ヲ成サントス今在廷臣僚ニ命シ假スニ時日ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至テハ朕親ラ衷ヲ裁シ時ニ及テ公布スル所アラントス朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時會速ナルヲ競フ浮言相動カシ竟ニ

大計ヲ遺ル是宜シク今ニ及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公  
 示スヘシ若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ争ヒ事變ヲ煽シ國安ヲ害ス  
 ル者アラバ處スルニ國典ヲ以テスヘシ特ニ茲ニ言明シ爾有衆  
 ニ諭ス

嗚呼陛下明治十四年十月十二日ノ大詔ヲ以テ吾人臣民ニ約  
 シ賜フ所ノモノヲ今日履行シ賜ヒ茲ニ欽定憲法七十六ヶ條  
 ナ制定シ紀元ノ大節ヲ以テ之ヲ吾人臣民ニ授ケ將ニ明年ヲ  
 期シテ國會ヲ召集シ賜ハントス是實ニ國體ノ一大變革ニシ  
 テ陛下ノ大英斷ト大聖徳トニ依ラズンハ焉ク能ク此盛典  
 ナ望ムヲ得ンヤ陛下此大英斷ト大聖徳トヲ推シテ吾人臣  
 民ノ腹中ニ置キ賜フ吾人臣民及吾人國民ノ子孫如何シテカ

誠忠ヲ表シ陛下及陛下ノ皇子皇孫皇曾孫ヨリ終ニ萬世  
 ニ進ル迄皇室ニ心服シ誓テ聖恩ノ裕渥ニ答ヘサルヘケンヤ

解釋者 恭識

# 大日本帝國憲法說明

法學士 中野省吾 著

## 大日本帝國憲法

近世有名ナル憲法學者マイセル氏ハ憲法ヲ解シ曰ク  
憲法ハ主權ノ分配及使用ヲ支配スルノ定規ナリト米  
國憲法學者グレイ氏ハ憲法ヲ解シテ主權ノ實行ヲ規  
定スル原則及定規ノ全體ヲ稱スト云ヘリ  
主權「政治社會ニ於テ一人若クハ數人ヨリ成立テル一  
體ガ常ニ國民ヨリ服從ヲ得且自カラ他國ノ政權ヲ奉  
セサル時其一人若クハ一體ヲ指シ主權者ト稱シ其權  
力ヲ指シテ主權ト稱ス」我國ニアリテハ主權ハ陛下之  
ヲ有シ賜ヒ而シテ此憲法ニ依リ其一部ヲ國會ニ貸與シ

賜フナリ解シ易ク云へハ憲法トハ政府ノ組織ヲ定メ  
 大權ノ所在ヲ明カニシ國民ト政府トノ關係ヲ示スモ  
 ノヲ云フ而シテ極メテ大本原則ヲ示ス者ト知ルヘシ其  
 細則ニ至テハ他ニ法律ヲ以テ規定ス憲法ノ分類法ニ  
 種々アリ成文憲法不文憲法ノ別アリ憲法全部ヲ成文  
 ナリ以テ規定セルト一部若クハ全部ヲ成文ナリ以テ規定  
 セサルトニヨリ此區別ヲ生ス又積成憲法制定憲法ノ  
 別アリ漸次條又條ヲ加ヘ幾年月日ヲ經數時代ヲ過キ  
 テ成レルモノ之ヲ積成憲法ト云フ例ヘハ英國瑞典國  
 憲法等ノ如ク數百年ヲ經テ成レルモノヲ云フ制定憲  
 法トハ格段ナル人ガ格段ナル時ニ定ムルモノヲ云ヒ  
 之ヲ制定スル人ニヨリ三種ノ細別ヲ生ス即チ欽定憲

法、民定憲法、約定憲法是ナリ欽定憲法トハ君主ノ定ム  
 ルモノヲ謂ヒ民定憲法トハ人民ノ定メタルモノヲ謂  
 ヒ(米國憲法ノ如シ)約定憲法トハ君主ガ草案ヲ作り人  
 民之カ商議修正ヲナスカ又ハ人民起草シ君主之ガ商  
 議修正ヲナスモノヲ謂ヒ(獨逸ノ普魯亞國憲法ノ如シ)  
 而シテ我國ノ憲法ハ即チ陛下ノ定メ賜フモノニ欽  
 定憲法ナリ尙ホ固定憲法不定憲法ノ別アリ是ダイセ  
 一氏ノ爲セル區別ニシテ固定憲法トハ其制定及改正廢  
 止ノ方法ガ通常法律ヲ制定改正廢止スルノ方法ト異  
 ナリ特別ノ手續ヲ要スルモノヲ云フ獨逸佛蘭米國等  
 ノ憲法ハ特別ナル方法ニ依ラサレハ之カ制定改正廢  
 止ヲナスルニ即チ固定憲法ナリ又不定憲法トハ立

法者カ通常他ノ法律ヲ制定改正廢止スル方法ト同一ノ方法ニヨリ制定改正廢止ヲナシ得ル憲法ヲ云フ(即チ英國憲法ノ如シ)然ラハ我帝國憲法ハ成文憲法ナリリッピンコンスタチューションニナクテコングレスチューション制定憲法ナリ欽定憲法ナリ固定憲法ナリト知ルベシ

### 第一章 天皇

## 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

字義 帝國 抑モ國トハ格定シタル土地ヲ占有セル獨立政治社會ノ謂ヒナリ而シテ或ハ境土ノ一ナルアリ分離スルアリ合併スルアリ一種ノ民屬ヨリ成ルアリ數種ノ民族ヨリ成ルアリテ國體ニ種々ノ區別ヲ生ス之ヲ大別シテ左ノ三種トス

### 第一 主領國體及ビ從屬國體

### 第二 單立國體及ビ復成國體

### 第三 單立國體及ビ同治國體

第一 主領國體及ヒ從屬國體トハ一箇ノ獨立國ガ屬國ヲ有スルニ當リ本國ト屬國トノ間ニ生スル關係ニヨリテ區別ヲナセルモノナリ即チ本國ハ主領國體ヲ有スルモノニ屬國ハ從屬國體ヲ有スル者ナリ而シテ本國屬國ハ必ズシモ同一政體ナルヲ要セズ例ヘハ英國ハ代議政體ニヨルモ亞米利加ニ於テ有スル諸屬國ニハ獨裁政體ヲ用フルカ如シ然シテ主領國體ト從屬國體トノ間ノ關係ニ二種アリ(一)本國及屬國ノ關係(二)保護國及被保護國ナリトス保護國被保護國各別ニ主權者ヲ有スルニ被保護國ノ主權者ハ保護國ノ主權者

ノ命令ヲ多少受クルヲ以テ此ノ如キ國ハ純粹ノ獨立國トハ云ヒ難シ所謂半獨立國ナルモノナリ例ヘハ埃及ハ土耳其ノ被保護國ノ如シ

第二 單立國體及復成國體 單立國體トハ民族ノ一種ヨリ成ルト數種ヨリ成ルトヲ問ハス國內畫一ノ政治組織ヲ有スルモノヲ云フ復成國體トハ數國ガ同盟シテ一國ヲ組織スルカ又ハ數國カ或政治上ノ目的ヲ遂クル爲メニ同盟スルモノヲ云フ故ニ復成國體ニ二種アリ合衆國體聯邦國體是ナリ合衆國體トハ數國共同シテ一箇ノ獨立國ヲ創建スル者ヲ云フ主權ハ其數國ヲ通シテ唯一アルノミ中央政府ヲ設ケテ外國ニ關スル事件及ヒ全國ニ通スヘキ立法行政司法ノ大權ヲ

之ニ委ヌル者ナリ雖然合衆國ハ素ト數個ノ獨立國ヨリ成ルヲ以テ合衆國全體ノ憲法ト違ハサル以上ハ各國獨立政治組織ヲ有スルヲ得瑞西獨逸帝國北米合衆國等ハ皆此國體ニ依ル者ナリ其全體ニ通スル法律モアリ其成分ノ一國ニ於テ完全ナル政治組織ヲ有ス獨逸帝國ニ於テハ國中一般ノ刑法ヲ有スルモ一般通用ノ民法ヲ有セズ 聯邦國體トハ或政治上ノ目的ノ爲メニ數個聯邦カ同盟シテ各邦ヲ代表スヘキ中央機關ヲ設置スルモノヲ云ヒ各邦ハ獨立ニシテ各其主權ヲ失ナハズ故ニ聯邦ハ一ノ國家ト見做スヲ得サルモノトス例ヘハ獨逸帝國創建前ノ獨逸聯邦ハ數ケノ獨立國同盟セルニスギズ之ヲ一國トナス能ハサリキ一千



八百七十一年ノ憲法ニ依テ合衆國體ヲナシテ始メテ  
 一國トナリシモノナリ  
 第三 單立國體及同治國體 數國が一君ヲ奉スル場  
 合ヲ同治國體ト稱ス同治國體ニ二種アリ一君同治國  
 體共戴同治國體是ナリ 一君同治トハ數個ノ獨立國  
 が同一ノ君主ノ支配ヲ受クル場合ヲ云フ即瑞典耶威  
 兩國が同君主ヲ戴クが如シ然レモ一君同治ニアリテ  
 ハ甲國ニ於テ君タルノ資格ハ乙國ノ君タルニ毫モ關  
 係ナキモノナリ偶然同一ノ君主ヲ戴ケルモノニスギ  
 ズノ共ニ主權ヲ失セズ之ニ反シ一君共戴ニ於テハ甲  
 國ニ君タルモノハ必ズ乙國ノ君タル資格ヲ得ルノ場  
 合ニノ明カニ憲法ヲ以テ定メタルモノナリ例ハ埃

太利國君位ト「ハンガリー」君位トハ憲法上分ツヘカラ  
 サルモノトナセルカ如シ而シテ埃太利ト「ハンガリー」  
 ハ各憲法ヲ異ニシ特別ナル司法行政立法權ハ各之ヲ  
 有シ其内部相互ニ關シテハ兩國殆ト獨立ノ有様ニノ  
 只外ニ對スル主權ハ必ズ一ノ君主ニ屬スルガ如シ  
 之ニ依テ之ヲ觀レハ我國ハ主領從屬ノ關係ヲ有スル  
 國體ニアラズ復成國體ニアラズ同治國體ニアラズ單  
 立國體ナリ即チ一國一君ヲ戴キ全國ヲ通シテ畫一ノ  
 政令ヲ以テ治メラル、モノナリ  
 說明 我大日本帝國ハ神武以還一流ノ皇室ニ於テ帝位  
 ニ即カセ賜フ御方ノ之ヲ主御シ賜フモノトス即位ノ  
 事ハ別ニ皇室典範ヲ以テ之ヲ定メ賜フ即チ我帝國ハ

世襲立憲君主國ニシテ今ヨリ后萬々歳ニ迄ルマデ今  
上皇帝陛下及ヒ陛下ノ皇子皇孫皇曾孫相承ケテ窮リ  
ナキハ我豐葦原國ノ三千年間遵奉シ來リ且遵奉スベ  
キ大法ニシテ又搖カスベカラザルモノナリ

### 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫 之ヲ繼承ス

字義 皇男子孫トハ男統ノ御子孫ヲ云ヘルモノニシテ  
女統ノ御子孫ヲ排除セルナリ我國古來女皇ナシトモ  
ス然レ極メテ希レナリ今歐洲各國ノ制ヲ學レハ魯  
西亞、葡荷、伯耳義、獨逸ノ普魯西亞、巴威里亞等ハ皆王位  
ハ必ズ之ヲ男系ニ傳フル者トス而シテ英國及ヒ獨逸ノ  
索遜尼王國ハ先ツ之ヲ男系ニ傳ヘ男系絶ユルノ后ナ

之ヲ女系ニ傳フルモノトス然レバ各國概テ男系ヲ以  
テ王位ヲ繼承セシムルヲ例トスルガ如シ

皇位トハ即チ神武以還ノ寶祚ニシテ三種ノ神器ト  
與ニ繼ガセ賜フ所ノ天子ノ御位ナリ

說明 天子ノ御位ハ皇室ノ御家法ナルモノニ定規スル  
所ニ從ヒ男系正嫡ノ皇子皇孫之ヲ繼承シ賜フモノト  
ス万一正嫡ノ皇子皇孫ナキハ他ノ皇室男系ノ御方  
皇室御家法ニテ規定スル所ニ從テ嗣ガセ賜フモノト  
知ルベシ

### 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラズ

說明 君主政體ノ國ニ於テハ君主ハ國家最高機關ナル  
ヲ以テ其身体ヲ保護スルハ特ニ大切ナリ故ニ何國ニ

於テモ君主ノ身体ハ神聖ニシテ侵スヘカラズトナシ特  
 別ナル法則ヲ以テ之ヲ保護ス我國ノ刑法第百十六條  
 第百十七條ヲ以テ天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ  
 又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス又右等ノ人ニ不  
 敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ  
 二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ付加ストノ條文アリ  
 何レノ代何レノ國ニテモ君主ノ身体ヲ侵スノ罪ハ之  
 ナ大逆トシテ嚴罰ニ處シタリ又君主ハ法律上ノ責ニ  
 任セズ國ニヨリテハ君主ニ對シ民事上ノ訴ヘナラス  
 ナ得ル(普魯西亞ノ如シ)アリ然レモ此君主ニ對シ其裁  
 判ノ執行ヲ爲サシムルヲ得サルナリ刑法治罪法等ノ  
 執行ハ固トヨリ君主ノ上ニ行フヲ得ズ故ニ曰ク君主

ハ惡ヲ爲ス能ハス King can do no wrong. ト其意味タルヤ之  
 ナ專制國ニ於テ解スルキハ君主ハ主權ノ全體ヲ掌握  
 スルヲ以テ敢テ法律ノ支配ヲ受ケズトナシ立憲君主  
 國ニテハ君主ハ國家ノ最高機關ナルヲ以テ法律ニ服  
 從セシムルノ要ナシトス

**第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲  
 法ノ條規ニヨリ之ヲ行フ**

說明 立憲君主政體國ニアリテハ君主ハ國家最高機關  
 ナリ即チ本條ノ所謂元首ニシテ國家ノ立法行政司法  
 ノ最高權ヲ握リ此憲法ノ規定ニ從ヒ他ノ機關即チ國  
 會國務大臣等ノ補助ニヨリテ掌握シ賜フ所ノ最高權  
 ナ行ヒ賜フモノト云フニアリ統治權トハ即チ主權ノ

謂ヒナリ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

字義 帝國議會トハ即チ明治廿三年ヲ期シテ召集シ賜  
フ所ノ國會ナリ其組織構成ハ后ニ國會(第三章第三十  
三條以下)ノ所ニ至リ詳論セン

說明 天皇ハ前ニ陳ヘタルカ如ク立法行政司法ノ三大  
權ヲ有シ賜フ此大權ニヨリ法律ヲ立テルニハ其起案  
ヲ國會ニ持チ出テ國會ノ商議賛成ヲ得テ后相當手續  
ヲ經テ法律ノ効果ヲ得ルモノトス是我 天皇陛下ノ  
政ヲ吾人臣民ト與ニシ賜フ所以ナリ歐洲各王國或ハ  
三大權悉ク君主ノ有スルモノアリ或ハ其一ニ有シ  
テ他ハ之ヲ國會ト共有スルアリ伊太利亞國ハ行政權

ハ悉ク國王ノ掌握スル所ニシテ立法權ハ國王及國會  
ニ屬ス英國ノ立法權ハ悉ク之ヲ國會ニ歸ス然レモ其  
國王ハ國會ノ元首ニ國王ノ外ハ國會ヲ開クノ權ヲ  
有セズ只國王崩御ノ際國會自ラ開會スルヲ得ルモノ  
トス魯西亞帝國ニ於テハ三大權悉ク君主ニ屬シ君主  
ノ意即チ國法ナリ The will of King is the will of State 伯耳義王  
國ニアリテハ立法權ハ國王并ヒニ國會ニ屬ス土耳其  
帝國ニ於テハ立法及行政ノ二權ハ國王ノ指揮ヲ受ケ  
太政大臣及教務大管長之ヲ行フ然レハ二權共ニ君主  
ノ手ニアルヤ明カナリ獨逸帝國ノ立法權ハ之ヲ帝國  
上院及帝國下院ニ屬ス其普魯西亞國ハ行政權ハ國王  
之ヲ有シ立法權ハ國會ト共有ナリ

立法ノ手續 立法手續ヲ分テ法律起案法律議決法律  
 裁可法律公布ノ四段トス法律起案權ハ國家ノ主長及  
 議員ニ屬スルヲ通常トス法律議決ハ憲法ノ定規ニ從  
 ヒ立法院ガ法律草案ヲ討論議定シテ可否決修正スル  
 ヲ云フ法律裁可トハ國家ノ主長立法院ノ議決ヲ經テ  
 ル法案ニ認可ヲ表スル法式ニシテ通常國家主長ガ法案  
 ニ署名シ國璽ヲ鈐スルヲ常トス我國ニアリテハ宰相  
 ノ記名ヲ要ス(憲法第五十五條)法律公布トハ國家ノ主  
 長ガ行政長官ノ資格ヲ以テ既ニ完成シタル法律ヲ國  
 民ニハ遵奉スヘキヲ命シ行政官吏ニハ執行スヘキヲ  
 命シ國民及ビ諸官府ニ通知スルヲ云フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命ス

字義及説明 前項立法手續ヲ陳ベテ裁可ノ字義ヲ説ケ  
 リ故ニ畧ス公布執行モ之ヲ説ケリ只一言スベキモノ  
 ハ立法ノ手續中裁可ニ至ル迄(裁可ヲモ含ム)ハ天皇立  
 法長官ノ資格ヲ以テ之ヲ爲シ賜ヒ議員モ立法權ニヨ  
 リ之ヲ爲スナリ公布執行ハ行政長官ノ資格ヲ以テ天  
 皇ノ行ヒ賜フモノナルト是ナリ

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及  
 衆議院ノ解散ヲ命ス

字義 召集 帝國議會ハ素ト天皇ヲ補助スル國家機關  
 タル者ナルガ故ニ天皇之ヲ召集シ賜フ者トス英國ノ  
 如キハ前ニモ述ヘタル如ク國王ハ國會ノ元首ニシテ國  
 王ノ外ハ國會ヲ開クノ權ヲ有セズ只國王崩御ノ際國

會自ラ開會スルヲ得ルモノトス而シテ召集ニ二種アリ  
 リ臨時召集ト通常召集是ナリ國事ノ臨時ニ議スベキ  
 モノアリテ次會ノ期ヲ俟ツヲ得サルモ臨時ニ召集ス  
 ルモノト毎年規定ノ時日ニ召集スルモノトアリ始メ  
 テ議員ヲ召集スルモ通常ノ中ニ含ムモノト知ルベシ  
 開會トハ國會議事ヲ開クノ式ヲ爲スヲ云フ英國ニテ  
 ハ兩院議員ヲ貴族院ニ召集シ國王其開會ノ式ヲ行フ  
 國ニヨリ或ハ國王親臨シテ其式ヲ行フアリ或ハ大臣  
 ナノ勅命ヲ讀マシムルアリ是等ハ別ニ規則ヲ定メズ  
 且自ラ慣例ヲ以テ法式トナスニ至ル  
 停會トハ臨時ノ必要ニヨリ國會ノ議事ヲ爲スヲ停止  
 セシムルヲ云フ停止ノ日限ヲ期スルヲアリ期セサル

トアリ(議院法第三十三條)然レモ我國ニアリテハ十五  
 日以内ナリトス例ハ毎年三ヶ月間繼續スルモノヲ  
 其未ダ三ヶ月間ヲ經過セサルニ當リ之ヲ十五日以内  
 ニ於テ停止スルモノナリ而シテ會議中ノ議案ハ停止ニ  
 ヲリ全ク無効ニ歸スルモノトス是亦天皇ノ命ニ賜フ  
 モノナリ英國ニテハ停會ハ或ハ日限ヲ定ムル事アル  
 モ勅命ニヨリ再ビ議事ヲ開クヲ許サルモハ日限前ニ  
 再ビ開會スルヲ得若シ勅命ナキ時ハ日限ヲ越ユルモ  
 自ラ議事ニ着手スルヲ得サルモノトス  
 閉會トハ毎年規定ノ時日ニ開會シ規定ノ日數間議  
 事ヲ爲シテ議會ヲ次會期迄閉ルカ又ハ臨時召集サレ  
 タル會ガ議事ヲ終リテ會ヲ閉ルヲ云フ

解散トハ國會ニ違憲(憲法ニ違フ)ノ所爲アルカ又ハ  
 偏僻等ノ議決ヲナス結果ノ國民ノ意旨ガ現議員ニ依  
 リテ代表サレ居ルカ否ヤヲ知ル爲メニ現國會ヲ解散  
 スルヲ云フ但シ更ニ五ヶ月以内ニ新撰議員ヲ召集シ  
 新召集ノ議員ヲ更ニ議事ヲ開カシムルモノトス

説明 天皇ハ國家最高機關ニシテ國會ハ其補助機關タリ  
 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ賜フモノナリ然  
 ラハ其國會ヲ召集シ開會閉會停會及ビ解散ヲナシ得  
 賜フハ必然ノ權カト云フヘキナリ

**第八條** 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避  
 クル爲メ緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ  
 於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

字義 法律トハ永久ノモノニシテ人民ノ遵奉スル上ニ付  
 キ裁判力ヲ有スルモノナリ重モニ人民ノ財産身體生  
 命權利ニ關スルコトヲ規定ス登記法市制町村制等ノ如  
 シ

勅令トハ天皇行政大權ノ淵源ヨリ流出スル法令ヲ  
 云フ故ニ勅令ハ行政上ノ命令ニシテ大臣一統(宮内大臣  
 ヲ除ク)其責任ニ當ル此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國  
 議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セザルキハ政  
 府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

説明 公共ノ安全即チ天爲人爲ノ災害ヲ未發ニ防ギ又  
 ハ其災害急厄ヲ免ル、爲メニ切迫セル必要アルニ當  
 リ國會ノ閉會シテ居ル時ハ(次會期ヲ俟ツテ議スルヲ

得ザルガ爲メニ法律ト同一ノ効力アル勅令ヲ發スルモノトス此場合ニハ勅令モ單ニ行政上ノ命令ニアラズシテ裁判力ヲ有スル法律同一ノ効力アルモノトス蓋シ目下ノ急ニ應スル變則ナリト知ルヘシ此ノ如クシテ發シタル勅令ハ素ト本則ノ手續(即チ國會ノ商議)ヲ經サルモノナルガ故ニ次ノ例會ヲ開ケル期ニ至リテ之ヲ提出シ其承諾ヲ得ルヲ要スルモノトシ若シ承諾セサルハ政府ハ右ノ勅令ハ其後ニ於テハ効力ヲ失フモノタルヲ諸官省及人民ニ通知スヘキモノトス

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ビ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ

命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ス

字義 命令トハ勅令閣令省令ノ總稱ナリ閣令省令モ總ヘテ天皇ノ發スヘキモノナルモ迅速便宜ノ爲メニ天皇ガ其權力ノ一部ヲ内閣總理大臣及ビ各省ノ大臣ニ付與シ其最モ重大ナルモノ、ミ勅令ヲ以テ規定ス閣令トハ總理大臣其職權内ニ於テ法律勅令等ノ執行ノ細目ヲ示スモノヲ云フ省令トハ各省ノ大臣主任ノ件ニ付キ法律執行ノ細目ヲ示スモノヲ云フ  
發シ又ハ發セシムトハ勅令ハ天皇自ラ之ヲ發シ閣令省令ハ總理大臣又ハ各省主任大臣ヲ發セシムルガ故ニ然カ云フ



説明 天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ(其細則等ヲ命令シ)又ハ公衆ノ安寧秩序ヲ保持シ(即チ内亂外寇等ヲ防禦スルノ策ヲ講シ)及ビ國民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ(即チ道路修繕鐵道開設郵便電信衛生教育貧民院等ノ事ニ關シ注意ヲナスガ爲メ)勅令閣令省令ヲ發ス然レモ是は行政上ノ命令ニシテ彼ノ天皇及ビ立法院ノ制定スル法律ヲ動カスコトヲ得ズ是ト矛盾セザル様ニ即チ法律ノ規定セル範圍内ニ於テ命令ヲ發スルモノトス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其條項ニ依ル

説明 夫レ君主ハ行政ノ長官ナリ故ニ法律ヲ公布シ又其執行ヲ命シ之ガ監視ヲナス又官吏ヲ任免進退セシムルヲ得行政諸官省ノ役員ハ直接間接ニ君主ノ任命スルモノナリトスルハ各國ノ通則ナリ天皇ハ即チ行政各部ノ官制(諸局ノ配置官吏ノ數)及ビ文官武官ノ年俸給料ヲ定メ及文武官ヲ任免スルモノトス然レモ憲法ハ特ニ任免法ヲ掲ケタルモノ(即チ第五十八條裁判官ノ如キモノ)又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノ(即チ判任官ハ其官廳長官ハ其官廳費用制限額内ニ於テ任免スルヲ得ルガ如シ)ハ各々其規定ノ條項通りニ任免シ一々天皇ノ任免等ヲ要セサルモノトス天皇ノ爲シ賜フ任免モ亦天皇及ビ國會ノ精算セシ制限額内ニテ爲シ賜フハ論ヲ俟タズ

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

説明 古來各國君主國ニアリテハ君主ハ兵馬ノ全權ヲ掌握セシモノナリ海陸軍ノ編制統督等總テ君主ノ特權ナリ是國家ノ主長正ニ取ルヘキ權ニシテ安寧秩序ヲ保ツノ一要道ナリ改正徵兵令ニヨレハ國民皆兵而シテ天子之ガ元帥タリ王室ノ盛美視ルヘキナリ

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

説明 前ニ述ヘタル如ク天皇ハ陸海軍ノ元帥ナルヲ以テ其編制統督軍吏ノ任免進退等盡ク天皇ノ特權内ニアルヘキモノトス且ツ常備兵即チ平時各鎮臺營所ニ備ヘ置ク兵隊ノ人員ヲ定メ賜フモノトス

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ビ諸般ノ條約

ヲ締結ス

説明 君主ハ外交ノ長官ナリ故ニ

(甲) 外國ニ對シテ國家ヲ代表シ外國ニ使節ヲ派出シ條約ヲ締結スルノ權ヲ有ス而シテ外國ト條約ヲ締結スルニハ立法議員ノ議決ヲ經ルヲ要スル國モアレバ議院ノ議決ヲ經ル時ハ種々ノ不便ヲ生スルヲ以テ立憲君主國ニテハ之ヲ君主ノ特權ニ歸スルナリ今其不便ハ一二ヲ云ヘハ議院開會中ニアラサル時ニシテ急速ニ應スル能ハズ外交ノ秘事ヲ公ニセサルヲ得ザル等是ナリ

(乙) 君主ハ外交長官トシテ或ハ開戰ヲ宣言シ或ハ講和ヲ規畫スルノ權アリ此權モ亦臨機應變ヲ要スルモノナリ

ルガ故ニ一々議會ノ議決ヲ經ル時ハ兵家ノ所謂機ヲ誤ルノ恐レアリ故ニ之ヲ君主ノ特權内ニ置ケルハ洵トニ適當ナルモノト云フヘシ

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

説明 天皇ハ陸海軍ノ元帥ニ又外交ノ長官ナリ宣戰講和ノ權ヲ有シ賜フモノナリ然ラハ機ニ臨ミ變ニ應シ豫メ其必要ヲ認ムルニ當リテハ兵備ヲ嚴ニシ警戒ヲ加フル權ヲ有シ賜フハ必然流出ノ結果ナリ而シテ嚴戒ハ如何ナル時機如何ナル方法ニ如何ナル時日間之ヲナス等ノ規定ハ別ニ法律ヲ以テ定メ賜フモノトス

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

説明 君主ハ榮譽ノ淵源ナリ故ニ貴公侯伯子男位(從正何位)勳章(何等)及其他褒賞稱號等ヲ授與スルノ特權ヲ有スルモノトス人民以テ勵ミ以テ譽トス又亦治國ノ要道ナリ

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

字義 大赦トハ犯罪者ノ既ニ裁判宣告ヲ受ケタルト否トチ問ハズ一同ニ放免宥恕スルヲ云フ例ハ内亂等ニ關スル犯罪ニシテ人心ノ鎮マリタル后チ之ヲ放免シ之ヲ宥恕スルカ如シ  
特赦トハ一般ニ行ハズ特典ニヨリ特別ノ人或ハ特別事件ニ關スル少數者ニ與フルノ赦典ヲ云フ

一般ニ減刑ト稱スルモノハ犯罪ノ情狀ニヨリテ通常付科スヘキモノヨリ數等輕キ刑ヲ科スルヲ云フ例ヘハ自首スル時ハ何等ヲ減スルト云フガ如シ然レモ其細密ナルモノハ固トヨリ天皇ノ裁判官之ヲ行ヒ彼死刑ノ如キ又ハ犯人收監後ニ於テ改愼ノ狀アルモノハ特典ニヨリ其刑ヲ減スルモノニシテ茲ニ所謂天皇ノ減刑ヲ賜フモノナリ

復權トハ重罪ヲ犯シタル者公權ヲ剝奪サレタル時或年限經過ノ后其情狀ニヨリ公權ヲ許サル、ヲ云フ

説明 天皇ハ司法ノ長官ナリ故ニ

(甲) 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ(第五十七條)及

(乙) 大赦特赦減刑復權ヲ命スルノ權ヲ有シ賜フモノトス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

字義 攝政トハ天皇未丁年(即チ十八年以下)ナルガ又ハ身體上精神上ノ故障ニヨリテ天皇政ヲ親ラスルヲ能ハサル時天皇ニ代リテ政ヲ執ルモノニシテ各國概テ君主ノ親屬ヲ以テ之ニ充ツ

説明 皇室典範第十九條ニ依ル時ハ天皇ノ未タ丁年ニ達セサル時ハ攝政ヲ置ク天皇久シキニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルヲ能ハサル時ハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置クトアリ又同第二十條以下

第廿三條ニ至ル迄ハ攝政職ニ任スヘキ者ノ順序ヲ規定ス即チ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫(是ハ天皇久キニ至ルノ故障ニヨリ政ヲ親ラスル能ハサル時ノ場合ニ當ルハ勿論ナリ)皇太子皇太孫成年ニ達シ賜ハサルキハ(第一)親王及王(第二)皇后(第三)皇太后(第四)太皇太后(第五)内親王及女王トス第廿二條ニ依レハ皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承(其女子ニ於ケルモ亦之ニ準ズ)ノ順序ニ從フ(皇室典範第二條ヨリ第九條ニ至ル)第廿三條ニ依レハ皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其配偶アラサルモノニ限ルトアリ(第廿五條ニ至リテ攝政規定終ル就テ見ルヘシ)

攝政ハ天皇ノ名ヲ以テ總テ天皇ノ有シ賜フ所ノ大權

ヲ行フモノトス即チ立法司法行政行政ノ大權ヲ始メトシ陸海軍ノ元帥外交ノ長官榮譽ノ淵源等ニ至ル迄盡ク之ヲ行フモノトス只名義ニ至リテハ必ズ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フ以テ大權ノ歸スル所ヲ明カニシ擅奪等ノ憂ヲ未發ニ防グナリ

### 第二章 臣民權利義務

權利ナル語ハ種々ナル意味ニ用ヒ或ハ天賦自由ノ權利ト云ヒ男女同等ノ權利ト云フト雖モ法律上所謂權利ナルモノハ右等ノ場合ニ用ユルガ如ク漠然タル意味ヲ有スルモノニアラズ其定義ノ如キハ種々アレモ最モ簡ニ最モ明ナルモノハ近世獨逸ニテ有名ナル法理學者イエリソグ氏ノ定義ナリトス氏ハ權利ヲ解

シテ曰ク權利ハ法律ニ依テ保護サレタル利益ナリト、義務トハ法律ガ人民ニ負ハシムル行爲(進テ爲ス)或ハ避止(退テ爲サレル)ノ責任ヲ云フ

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

字義 日本臣民トハ日本國ニ生レタルモノ又ハ外國ヨリ歸化シタルモノヲ併セ稱スルモノコノ苟モ日本法律ノ付與スル所ノ權利ハ悉ク之ヲ享有スルヲ得日本法律ノ負擔セシムル義務ハ悉ク之ガ責任ヲ有スルモノト知ルヘシ

説明 日本臣民タルモノハ斯々ノ人ヲ指スモノナリト云フニ至テハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ規定スト云フニア

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其他ノ公務ニ就クヲ得

字義 法律ト命令ノ區別ハ第九條ヲ説クニ當テ既ニ之ヲ陳ベタリ故ニ畧ス

説明 日本臣民タルモノハ法律命令ノ規定セル所ノ資格ヲ有スルモノハ何人タリモ同一様ニ文官武官ニ任セラレ又ハ他ノ公務(縣會議員國會議員等)ニ就クヲ得ルノ權利アルモノトス

第二十條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

説明 日本臣民ハ法律(徴兵令)命令(召集ニ應スル手續等)ニテ規定スル所ニ從ヒ兵役即チ血税ノ義務アル者トス苟モ國家アレハ之ヲ保護スルノ機械ナカル可ラス而シテ兵隊ハ國家防衛保護ノ一大機械ナリ外國ノ侵寇内地ノ叛亂時チ伺ヒ間ニ乘シ來ラズンハアラヌ宇内ノ形勢ハ優勝劣敗生存競争ナリ此眞理ハ浴ク森羅萬象ニ渡リテ又漏ラス所ナシ且夫レ平和ノ交通ヲ爲シ正當ノ目的ヲ達シ得ントセバ必ズ兵備ナル後口備ヘナカル可ラス故ニ兵備ハ獨リ戰ノ用ノミナラズ又亦平和公正ヲ得ルノ要具ナリ而シテ是レ誰レノ爲メツ皆國家ノ爲メナリ國民ノ爲メナリ國民ノ父母妻子兄弟ノ爲メナリ臣民タル者兵役ノ義務ヲ負ハズシテ可ナ

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

説明 日本臣民タルモノハ法律ニ定ムル所ノ租税ヲ納ムル義務アルモノトス抑モ一國アル以上ハ法律ナカルヘカラス之ヲ執行セサルヘカラズ訴訟ヲ聽カサルヘカラス軍備ナカルヘカラス衛生謀ラサルヘカラス學校設ケサルヘカラス其他電信郵便道路燈臺氣象臺ニ至ル迄悉ク其備ナカル可ラス是實ニ國家ノ健康ノ爲メニ國家ノ進歩ノ爲メニ必用ナリ而シテ第一ニ要ス

ルモノハ資本ナリ是實ニ國家ヲ爲ス所ノ個々ノ臣民  
ガ皆共ニ此租税ヲ拂ハサルヘカラサル所以ナリ

### 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及

移轉ノ自由ヲ有ス

説明 日本臣民ハ法律ノ規定ニ背カサル以上ハ何レニ  
居住シ何レニ移轉スルモ自由ナリ(東京退去ヲ命セラ  
レタルモノハ東京ニ居住スルヲ得ス又犯罪アルガ爲  
メニ獄ニ繋レタルモノハ獄ヲ脱スルヲ得ス又寄留ヲ  
ナスルハ相當ノ手續ヲナス等ハ皆法律命令ニ依ラザ  
ルベカラザルハ勿論ナリ)

### 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニアラスシテ逮 捕監禁審問處刑ヲ受クルコトナシ

字義 逮捕トハ被告運行ノ自由ヲ妨クル爲メニ被告ヲ

捕フルヲ云フ而シテ現行犯ノ外ハ令狀ナクシテ捕フル  
ヲ得ズ監禁トハ被告ヲ拘留シ之ヲ閉テ込メ其自由ヲ  
束縛スルヲ云フ

審問トハ被告ヲ法庭ニ呼ヒ出シテ吟味ヲ爲スコトヲ云  
フ處罰トハ刑罰ヲ付科セラル、ヲ云フ

説明 日本臣民タルモノハ法律ニ依ルニアラスシテ(即  
チ罪ヲ犯シテ拘引サル、ガ如キハ法律ニ依ルモノナ  
リ)逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナキ者トス抑逮捕審  
問處罰ハ或ハ人身ノ自由ヲ害シ或ハ金錢上ノ損害ヲ  
來スヲ著シキモノナル故ニ猥リニ逮捕等ヲサル、理  
由ナシ必ス逮捕等總テ或ハ令狀ヲ示シテ之ヲナシ或



ハ裁判ノ上ニテ之ヲ付科スベキモノニシテ決シテ法律外ノ事ニ付キテ逮捕等ヲサル、フナキモノトス

### 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、フナシ

說明 日本臣民タル者ハ法律ヲ以テ定メタル裁判官(即チ法律規定スル所ノ裁判所ノ裁判官例ヘハ民事ハ民事裁判所)ヘ持テ行ケハ必ス採用サルベキモノトス勸解始審控訴大審院ト順次事件ヲ提出シテ苟モ自ラ權利アリト確信スルニ於テハ法律規定ノ裁判所ヘ持テ出セハ必ス裁判官ハ之ヲ採用シ其訴ヲ聽カザルヘカラサルモノトス正當ノ理由ナクシテ之ヲ採用セサルニ於テハ別ニ規則ノアルアリテ裁判官ヲ罰ス皇室典

範第五十條ニ曰ク人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ自ラ訟庭ニ出ルヲ要セスト之ニ依テ之ヲ觀レバ吾人臣民權利義務ノ争ヒニ於テハ皇族ニ對シテモ之ヲ爲スフヲ得ルモノナリト知ルヘシ

### 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク

ノ外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及ビ搜索セラレ、フナシ

字義 此ノ所住所ト云ヘルハ法律上ノ所謂ル主タル住居ヲ置クノ地ニ限ラズシテ單ヘニ法律ニ從ヒ日本住民ノ居住スル所ヲ云ヘルモノナリ(故ニ下宿屋ニ居ル者ト雖其借リ受ケタル部屋ハ即チ住所ト見ルヘシ)

説明 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合即チ犯罪ノ嫌疑ニ付搜索ノ爲メ等ハ之ヲ除キ何人ト雖住居者ノ許ヲ得ズシテ其住所へ侵入シ又ハ家宅ヲ搜索スルヲ得サルモノトス

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク

ノ外信書ノ秘密ヲ侵サル、トナシ

説明 日本臣民タルモノハ法律ニ定メタル場合(即チ犯罪嫌疑等ノ信書)ノ外ハ決シテ信書ヲ他人ニ披見サル、理由ナキモノトス人各々多少ノ秘密アリ他人ニ披見サル、ヲ好マサルヲアリ此意旨ヲ害セラル、ノ理由ナキモノトス

右廿五條廿六條ハ事小ナルカ如シト雖其個々ノ臣民

ノ權利ニ大關係アルモノナルヲ以テ必ス輕々ニ看過スヘカラス

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、トナシ

益ノ爲メ必用ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

字義 所有權ノ定義 所有權トハ物件ニ付キ占有收益及ヒ處分ヲ爲スノ權ヲ云フ例へハ土地所有權ヲ有スル者ハ其土地ニ居住ヲ占メ其土地ヨリ生スル収穫物ヲ収用シ其土地ヲ他人ニ贈與賣渡等ヲ爲スノ權アルガ如シ佛國民法第五百四十四條ニ所有權ノ定義ヲ與ヘテ曰ク所有權トハ法律又ハ規則ヲ以テ禁止シタル使用ヲ爲サ、ルニ於テハ不羈自由ノ方法ヲ以テ物件

ニ付キ収益ヲナシ處分ヲ爲スノ權ヲ云フ「此等ノ定義ニ依レハ所有權ハ左ノ三元素ヨリ成ルモノナリ第一占有權第二収益權第三處分權是ナリ

(第一)占有權

即チ一個人ガ他人ヲ排除シ自己ニ物件

ヲ保有スルノ權利ヲ云フ而シテ占有權ニ復タ二元素アリ

(甲)體實上ノ權利

即チ物件占有ノ事實ヲ云フ例

ハ甲ガ土地ヲ占有スルトキハ他人ノ猥リニ境內ニ侵入スルヲ許サ、ルノ權ヲ有シ又書籍ヲ有スル時ハ

己レ之ヲ監守シ他人ヲ之ヲ奪ヒ去ラシメサルノ權

ノ如シ然レモ必ズシモ物件ニ接シ物件ヲ體力ニテ保

持スルヲ要セス即チ倉ノ鍵ヲ有スレバ其倉ヲ占有ス

ルノ實アル者ト爲スガ如シ (乙)精神上ノ權利 即チ

他人ヲ排除シ己レ物件ヲ保持スルノ意旨アルヲ云フ

故ニ物件ヲ保持スルノ權利アルモ之ヲ保持スルノ意

旨ナキハ占有ト云フヲ得ズ意旨アリト雖モ之ヲ保

持スルノ實ナキハ占有ト云フヲ得ズ既ニ之ヲ保持

スルノ實力アリ又之ヲ保持スルノ意旨アリテ始メテ

完全ノ占有アリト云フヲ得ルナリ

(第二)収益權 即チ其物件ヨリ生スル利益ヲ採収スル

ノ權利ヲ云フ而シテ其權利ニ二種アリ (甲)使用權

物品ヲ使用シテ其利ヲ享クルヲ云フ例ハ書籍ヲ讀

ミ車馬ニ乗スルガ如シ (乙)収實權 即チ物品ヨリ産

出スルモノヲ採取スルノ權ヲ云フ例ハ田畠ノ作物、

山林ノ材木、資本金ノ利潤等ノ如シ此利益ヲ分ツテ三

種トス(一)自然ノ果實(樹木ノ果實家畜ノ蕃殖、山林ノ材木等)(二)人爲ノ果實(物品ニ勞力ヲ施シテ得タルモノ即チ種子ヲ播シ耕作シテ得タル作物等)(三)民法上ノ果實即チ貸付金ノ利子等ノ如シ

(第三)處分權 他人ノ權利ヲ害シ或ハ法律規則ニ違ハサル以上ハ自由ニ處置シ得ルヲ云フ即チ分ツテ三種トス (甲)讓與權 即チ所有主ハ所有品ヲ自由ニ他人ニ賣渡シ又ハ贈與シ得ルカ如シ又所有品ノ一部ヲモ讓渡シテナスヲ得 (乙)消費權 物品所有者ハ隨意ニ其所有品ヲ破却遺棄消費スルノ權アリ (丙)變更權 所有者ハ隨意ニ其所有品ノ性質ヲ變更スルノ權アリ 例ヘバ田地ヲ家敷トナシ家敷ヲ耕作地トナスノ類ナリ

リ

右三種ノ權即チ占有權收益權處分權ヲ合セ有スルモノヲ所有權ヲ有スルモノト云フ

說明 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、トナキモノトス

即チ右三種ノ權利ヲ享有スルヲ妨ゲラレサルモノトシ之ヲ妨クルモノアルキハ法律ノ保護ヲ請求スルヲ得ルモノナリトス

公益ノ爲メ必要ナル處分(即チ鐵道線路ニ當ル土地家屋ヲ買上グル、市區改正ノ爲メ土地家屋上必用ナル變更等)ハ別ニ法律ノ定ムル所ニ依テ處分スルモノトス即チ相當ノ代價ヲ與ヘテ之ヲ買上グルナリ

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タ

ルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス  
字義 信教ノ自由トハ一定ノ國教ヲ設ケ置カズ佛敎ナ  
リ耶蘇敎ナリ神敎ナリ又其宗教中ノ何派ヲ取ルモ個  
々名々ノ自由ニ任スチ云フ

説明 日本臣民ハ社會ノ平和ヲ妨ゲズ上下ノ秩序ヲ亂  
ラズ其他臣民ノ負フヘキ義務ヲ怠ラサル以上ハ(即チ  
争鬪等ヲ引キ起サズ從順善良ノ民タル以上ハ)何宗教  
ヲ信スルモ隨意ナリトス泰西諸國ノ歴史ヲ緝ク者ハ  
舊敎(カトリック)ト新敎(プロテスタント)トノ間ニ如何ナ  
ル争鬪ヲ生シ如何ナル悲惨ノ境遇ニ至リタルヲ思ヒ  
出デ、震慄スルナラン「セントパトリック」ニ  
ノ殺戮ノ如キハ恐レテモ尙餘リアルヲナリ、我國ニア

リテモ徳川氏ノ時天草ノ亂等アリタリ必竟信教ノ自  
由ヲ與ヘサルハ思考ノ自由(フリードム、オブソート)ニ  
干涉スルモノニシテ理ニ於テ爲シ得ヘカラサルモノナ  
ルニヨル此條ノ規定スル所偶然ナラサルヲ知ルヘシ

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論、著  
作、印行、集會、結社ノ自由ヲ有ス

説明 日本臣民ハ法律規則ニ背カサル以上ハ言論(即チ  
集會條例ニヨルヘシ)著作印行(出版印行ニ關スル條例  
ニ依ルヘシ)集會(集會條例ニ依ルヘシ)結社(政黨又ハ商  
業其他ノ目的ヲ以テ數人集合シテ共同ノ事業ヲナス  
等ハ又其事件ニ關スル條例規則ニヨルヘシ)ヲ自由ニ  
爲スチ得ルモノトス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規定ニ從ヒ請願ヲ爲スヲ得

字義 請願トハ一個人又ハ法人(集合體)ノ議院ニ呈出スルモノニシテ哀願ノ體式ヲ以テ認ムヘキモノナリ憲法ト共ニ發布サレタル法律第二號議院法第六十二條以下第七十一條ニ至ルヲ參照スヘシ第六十二條ニ曰ク各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニヨリ議院之レヲ受取ルヘシト然レハ請願書ヲ出スニハ必ス國會議員ノ紹介ヲ要スルモノトス

說明 日本臣民ハ相當ノ敬禮(即チ皇室又ハ議員ニ對シ不敬侮辱ノ語ナキモノ)ヲ守リ別ニ規定スル所ノ規則(議院法第六十二條ヨリ第七十一條ニ至ル及ビ細則書式等)ニ從テ呈出スルキハ議員ハ之ヲ受取リテ會議ニ附ス憲法ヲ變更スルノ請願(議院法第六十七條)司法及行政ニ干預スルノ請願(議院法第七十條)等ハ議院之ヲ受クルヲ得サルモノトス

第三十一條 本章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨グルヲナシ

說明 本章トハ即チ第二章ヲ云ヘルナリ此章ニ規定セル臣民ノ權利(即チ居住移轉ノ自由信書秘密ノ權住所ヲ侵サレサル等ノ權利)其他ニ關スル條規ハ戰爭ノ時又ハ國家事變ノアル時ニ於テ天皇(軍務上行政上又ハ司法上)大權ヲ行ヒ賜フヲ妨クルヲナキモノトス即チ斯ル急須ノ時ニ當リテハ非常ノ處分ヲ爲サルヲ

得サルガ故ニ本條例外ニ出デサル可ラズ即チ或ハ戰時ニ於テハ某地ニ居住ヲ禁スルヲモアルヘク又移住ヲ禁スルヲモアルヘク所有ノ建家ヲ取り拂ハテバナラヌヲモアルヘシ其ハ畢竟行政上又ハ司法上又ハ軍事上ノ必要ニ出ツルモノニテ洵ニ公共ノ爲メナリ故ニ此條規アリ

### 第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又

ハ紀律ニ抵觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

説明 第二章ニ掲ゲタル條規ニ依リ一般臣民ハ權利義務ヲ規定サル、モノナレモ軍人ニ至リテハ行政上其他ノ理由ニヨリ大ニ他ノ臣民ト區別セサルヘカラザル者アリ故ニ陸海軍ノ法令又ハ其紀律ト並行シ得ル

條規ノミ軍人ニモ適用スルモノトス例ヘハ第廿九條ニ集會及結社ノ自由ヲ有ストアルモ軍人ニアリテハ陸海軍法令ニヨリ政談會又ハ政黨社員タルヲ得ス故ニ此條ハ軍人ニ適用スヘカラサルガ如シ之ニ反シ第廿七條ノ日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、トナシノ如キハ軍人ニモ適用スルヲ得ルモノトス

### 第三章 帝國議會

帝國議會ハ即チ明治廿三年ヲ期シテ召集シ賜フ所ノ國會ナリ

### 第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

字義 貴族院トハ各國ノ所謂上院ノ事ナリ勅令第十一

號貴族院令第壹條ニ貴族院ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス  
 一、皇族ニ、公侯爵三、伯子男爵各其同爵中ヨリ撰舉セラ  
 レタルモノ四、國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特  
 ニ勅任セラレタル者五、各府縣ニ於テ土地或ハ工業商  
 業ニ付多額ノ直接國稅(直接國稅トハ地租及所得稅ヲ  
 云フ)ヲ納ムルモノ、中ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラ  
 レタルモノトアリ

上院ノ組織ハ國ニ依テ異同アルモ概テ左ノ三種ヨリ  
 成立スルモノトス

第一種 世襲貴族

第二種 君主ノ勅撰ニ係ル議員

第三種 人民ノ間接撰舉ニ係ル議員

第一種 世襲貴族ヨリ組織スル議員ハ英國ヲ以テ最著  
 ナリトス英國ノ上院ハ殆ント五百人程ニシテ其議員ト  
 ナルヘキモノハ左ノ人種ナリトス

- (第一) 皇族
- (第二) 大僧正
- (第三) 公爵
- (第四) 侯爵
- (第五) 伯爵
- (第六) 子爵
- (第七) 男爵
- (第八) 僧正
- (第九) 蘇格蘭土代表華族(此地ノ華族中ヨリ撰出サ



レテ議員トナルモノ

英國ノ上院ニ於テ議員トナル者ハ皆世襲ナリ故ニ其表面ニテハ英國上院ハ第一種即チ世襲貴族ノ者ニ屬スルカ如シ然レモ英國ノ君主ハ國家ノ元勳或ハ學術ニ有名ナル者等チ一代貴族トナスノ權利ヲ有スル者ナルヲ以テ其實英國上院ハ第一種第二種ヲ混合セシ者ナリ

伊太利國ハ元老院(即チ上院)ハ君主勅撰ノ議員ヨリ組織ス全國ニ於テ上院議員トナルモノハ丁年以上ノ皇族及ヒ君主ノ直撰ヲ以テ元老議員トナサレタルモノナリ而シテ憲法ニ於テ君主ノ直撰ニ係ル者ハ年齡四十年以上ニシテ嘗テ高等ノ官職ヲ有シタルモノ又ハ現ニ

其職ニアルモノ又ハ學術事業等ヲ以テ國家ニ功績アルモノ又ハ一年ニ三千「リール」凡我七百圓以上ノ納稅ヲナス者トス

第三種ノ人民間接撰舉ニ係ル代議士ヨリ組成スル上院ハ合衆國ヲ以テ適例トス合衆國ノ元老院即チ上院ノ議員ハ各州ノ立法議會ヨリ撰舉セルモノニシテ人口土地ニ關セズ一州ニ付キ二人ノ上院議員ヲ出スノ權ヲ有ス合衆國ノ元老院ハ副大統領其議長ナリ

獨逸聯邦議員ハ各邦政府ノ全權委員六十二名ヲ以テ組成ス其議員ヲ出スノ割合ハ各邦大小ニ依テ同カラズ例ヘハ普魯西亞十七名「バヴリヤ」六名等ノ如シ聯邦議員ハ各邦政府ヲ代表シ各其政府ノ訓令ヲ奉スヘキ

モノトス議長ハ帝國總理大臣之ニ任ス  
 我國ニアリテハ勅令第十一號貴族院令第二條ヨリ第  
 七條ニ至ルノ條規ヲ以テ上院議員ノ資格及任期ヲ規  
 定ス第二條ニ曰ク皇族ノ男子成年(皇族ノ成年ハ滿廿  
 年ヲ云フ)ニ達シタルキハ議席ニ列ス公侯爵ハ滿廿五  
 歳ニ達シタルキハ議員タル者トス伯子男爵ヲ有スル  
 者ハ滿廿五歳ニ達シタル者ハ其同爵ノ者ノ撰ニヨリ  
 テ議員トナリ七ケ年間議員タル者トス而シテ此等撰出  
 議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカ  
 ラズ即伯爵二十八アリトスルキハ伯爵ヨリ撰出スル  
 議員ノ數ハ二十ノ五分一即チ四人以上ニ出ルヘカラ  
 ス以上ハ世襲コノ皇族及ビ公侯爵ハ伯子男ノ如ク七

年間毎ニ撰出スル議員アラズシテ各其終身議員タル  
 モノニシテ其子孫モ亦同シ國家ニ勳勞アリ又ハ學識ア  
 ル滿卅歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議  
 員タルヘシ又各府縣ニ於テ滿卅歳以上ノ男子ニシテ土  
 地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムルモノ十  
 五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其撰ニ當リ勅任セラレタ  
 ル者ハ七ケ年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシトアリ之ニ  
 因テ之ヲ見レバ我國上院ノ組織ハ前ニ所謂第一種(世  
 襲貴族)第二種(即チ君主ノ勅撰ニ係ルモノ)及ビ第三種  
 (人民ノ間接撰舉ニ係ルモノ)即チ土地或ハ工業商業ニ  
 付多額直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互  
 撰シ(十五人モ互ニ撰ムヲ云フ)其選ニ當リ勅任セラレ

タルモノ云々ノ三種并合セルモノナリ  
 上院ノ議長ハ其議員中ヨリ七ヶ年ノ任期ヲ以テ勅任  
 セラル、モノトス衆議院トハ即チ各國ノ所謂下院ノ  
 事ナリ民撰議院ノ事ナリ其議員ハ人民ノ撰舉セル代  
 議士ヨリ成ルモノトス而シテ撰舉法ニ直接撰舉法ト  
 間接撰舉法ノ別アリ又普通撰舉法ト制限撰舉法ノ別  
 アリ直接撰舉法トハ撰舉者ガ直チニ議員トナルヘキ  
 モノヲ撰舉スルヲ云ヒ間接撰舉法トハ撰舉者ガ先ツ  
 撰舉人ヲ撰舉シ更ニ此撰舉人カ被選舉人ヲ撰舉スル  
 ナ云フ故ニ間接撰舉法ヲ稱シテ二重撰舉法トモ稱ス  
 例ヘハ獨乙ノ普魯西亞ノ如シ普通撰舉法トハ人民一  
 般苟モ丁年ニ達シタル男子ハ悉ク撰舉ヲ爲シ得ルモ

ノトナシ別ニ租稅納額等制限ナキモノヲ云フ例ヘハ  
 佛國獨逸等ノ如シ又制限撰舉法トハ租稅納額等ノ制  
 限アルモノヲ云フ法律第三號衆議員撰舉法第二章第  
 六條ニ撰舉人ノ資格ヲ規定シテ曰ク第一日本臣民ノ  
 男子ニシテ年齡滿廿五以上ノ者第二撰舉人名簿調製  
 ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ  
 仍引續キ住居スルモノ第三選舉人名簿調製ノ期日ヨ  
 リ前滿一年以上其府縣内ニ於テ直接國稅(直接國稅ト  
 ハ地租及所得稅ヲ云フ)十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納  
 ムル者(但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前  
 滿三年以上之レヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル)之ニ  
 依テ之ヲ觀レハ我國ノ撰舉法ハ制限撰舉法ナリ直接

選舉法ナリ普通選舉法ヲ取ルノ國ナシト雖此法タルヤ極メテ危險ナリ何トナレハ一般人民ノ最多數ヲ占ムルモノハ極貧者ナルカ故ニ候補者ニシテ選舉セラレント欲スル者ハ勢ヒ此ノ極貧者ニ媚ヒ財ヲ與ヘ贈テ厚フシテ其意ヲ得ルモノ比々皆是ナリ茲ヲ以テ適任者ト雖モ極貧者ニ媚ヒサル者ハ當撰セラレス不適任者ト雖モ極貧者ニ媚フル者ハ當撰セラル、ノ結果ヲ生シ其適任者ヲ得ルハ却テ制限選舉法ニ在リ如カス普通選舉ノ虛榮名ヲ去テ制限選舉法ノ着實ナル實價值ヲ占メシニハ代議士ヲ撰舉スル爲メニ全國ヲ區畫シテ數撰舉區トナシ一區毎ニ一人乃至數名ノ代議士ヲ出サシム而シテ或ハ各區人口ノ多寡土ノ地廣狹

ニ關セス同數ノ議士ヲ出ス國アリ又異數ノ代議士ヲ出ス國モアリ又撰舉區ハ行政區(即チ府縣郡區市町村)ニ依テ定ムル國アリ又全ク行政區ト異ナル國モアリ英國ノ行政區ト撰舉區トハ全ク別ナリ又撰舉區ノ大小ニ依リ議員ヲ出スノ數モ異レリ英國ニ於テハ撰舉區ヲ市府撰舉區及郡部撰舉區トシ其大小ニ依テ撰舉人ノ數ヲ異ニス例ヘハ倫敦ハ三十撰舉區ヲ有シ一區ヨリ一人ヲ出スアリ七人ヲ出スアリ通計六十二人ヲ出ス「リバープール」ハ九人「グラスゴ」ハ七人等ノ如シ米合衆國ノ撰舉區ハ行政區畫ニ基キタル者ニシテ各洲ヨリ代議士ヲ撰出ス然レモ議員ノ數ハ州ノ大小ニ依テ定マルナリ紐約育州ハ卅四人「マサチューセツト」州ハ十

四人等ノ如シ(千八百八十年ノ調査)獨逸帝國議會ノ議員ヲ撰擧スルコハ全帝國ヲ三百九十七區ニ分チ一區毎ニ一人ノ代議士ヲ出スモノトス而シテ最小區ノ人口ハ六萬人ヨリ最大區ノ人口ハ十六萬人以上ニ達ス今我國ノ衆議院議員撰擧法附録ヲ見ルニ東京府十二人京都府七人大阪府十人神奈川縣七人トアリ而シテ東京府ヲ十二撰擧區ニ分チ麴町區麻布區赤坂區ヲ合シテ一區トシ芝區ヲ第二區トシ一區一人ヲ出スアリ二人ヲ出スアリ郡ノ縣ニ於ルハ猶區ノ府ニ於ルカ如ク或ハ數郡ヲ合シテ一撰擧區トナシ或ハ一郡ヲ以テ一撰擧區トス之ニ依テ之ヲ觀レハ我國ノ議員撰擧區ハ行政區畫ニ基キテ立テタル者ニシテ行政區畫ニシ

テ大ナル者即チ新潟縣ノ如キハ十三人ヲ出シ宮崎縣ノ如キハ三人ヲ出ス而シテ其行政區畫毎ニ之ヲ數撰擧區トナシ區ノ大小ニ依リテ復タ一人ヲ出スモノアリ二人ヲ出スモノアリ故ニ合衆國ノ制ノ如キカ衆議員通計三百人アリ之ヲ人口三千八百萬ニ割リ當ルキハ十二萬六千人ニ一人ノ割ナリ今歐洲各國ノ下院議員ノ數ヲ擧ケレハ左ノ如シ米國ニ於テハ現時三百廿五人ナリ獨逸帝國議會ハ三百九十七人佛國代議士院ハ五百八十四人英國ハ議員ノ數最モ多クシテ六百七十八トス然シテ各國ノ議員ノ數ト人口ノ數トノ割合ハ大約六七萬人ニ一人乃至十二三萬人ノ割合ナリ然レハ我國ノ如キ之ヲ各國ニ比シテ其數少シトセス

被撰學者ノ資格被撰學者ノ年齢ハ撰學者ノ年齢ト異  
ルアリ同キアリ英國ハ撰學者被撰學者共ニ滿廿一歳  
以上ナレハ宜シトス獨逸ノ撰學者ハ廿五歳被撰學者  
ハ三十歳以上ナルヲ要ス米國ハ英國ト同ク撰學者被  
撰者共ニ廿一歳ナレハ宜シトス我國ノ撰學者被撰學  
者ノ年齢ハ恰モ獨逸ト同ク撰學者ハ廿五歳以上(法律  
第三號衆議院議員撰學法第六條第一項)又被撰學者ハ  
滿三十歳以上(同第八條)トス直税國稅十五圓以上ヲ納  
メ云々ハ撰學者ト同ク宮内官裁判官會計検査官收稅  
官及警察官ハ被撰舉人タルヲ得ス(同第九條)府縣郡ノ  
官吏ハ其管轄區域内ニ於テ被撰舉人タルヲ得ス(同第十  
條)トアリ各國或ハ撰舉權ニ於テハ財産制限法ヲ設ク

ルモ被撰舉權ニ於テハ之ヲ設ケサルモノアリ即チ英  
國ノ如シ被撰舉權者ノ身分上ノ制限ハ各國概テ撰舉  
權者ニ比シテ大ナルカ如シ故ニ撰舉權ヲ有スルモノ  
ニシテ尙ホ其身分ノ爲メニ被撰舉權ヲ有セサルモノ  
アリ英國憲法ニ依レハ上等裁判所ノ判事英國々教ノ  
僧職ヲ有スルモノ、官吏、身代限ノ處分ヲ請ケテ其義務  
ヲ終ヘサル者、等ハ被撰舉權ヲ有セサルモノトス我國  
ニテハ前ニ述ヘタル如ク宮内官、裁判官、會計検査官、收  
稅官、及警察官、ハ被撰舉人タルヲ得ス又陸海軍人現役中  
又休職停職ニアルモノハ共ニ撰舉權被撰舉權ヲ有セ  
サルモノトス又身代限ヲナシテ其負債ノ義務ヲ終ヘ  
サルモノハ撰舉被撰舉兩權共ニ無キ者トス(撰舉法第

十四條)又華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉被撰舉權共ニ無キモノトス(同第十六條)身分ニ關シテハ撰舉法第六條ヨリ第十條ニ至ルノ條規ヲ以テ之ヲ規定ス之ヲ要スルニ概テ歐米諸國ノ着實完備ノ憲法ト大同小異ノミ必竟撰舉人被撰舉人ノ資格ハ四種ヨリ成立スルモノトス即チ第一國民タルヲ第二規定ハ年齡第三規定ハ財産額(即チ納稅)第四例外規定ハ身分ニアラサルモノナリトス

兩院 即チ貴族院衆議院ノ二院ノ必要ナルヲハ現今ノ憲法學者ハ皆之ヲ認メタリ歐米諸國或ハ其上ニ一院制ヲ用ヰタル者モ現時漸ク二院制ヲ取ルニ至レリ獨リ希臘ハ一院制(下院ノミ)ナリ然レモ是トテモ議事

ヲ最モ鄭重ニ取扱フ條規ヲ設ケ憲法ニ明載ス即チ一日一議事ヨリ多キヲ得ス議事ハ必ス三回ニ及テ始メテ議決スルヲ得ルモノトス等ノ規定アリ必竟一院制ハ最モ危險ナリ今兩院制ノ適當着實ナル所以ヲ舉レハ大畧左ノ如シ

甲 同一ノ議事ヲ二院ニテ議スルキハ種々ナル見解吟味ヲナスヲ得テ反復鄭重ナルヲ以テ正鵠ヲ誤ラサルノ利益アリ

乙 各院互ニ他院ノ一時ノ情欲ヲ以テ疎暴過激ナル議決ヲナス事ヲ防ギ以テ國家ヲ保護シ得ルヲ及ビ一院ニ於テノ多數決(勢力アル黨派ガ他黨ヲ壓シ益々自黨ノ利益ヲ計ル)ノ弊害ヲ防ク

丙 兩院ヲ置ク時ハ貴族的ノ思想ヲ代表スルモノト  
 平民的ノ思想ヲ代表スルモノト各其意見ヲ提出シ得  
 ルヲ  
 然レモ或ハ二院制ヲ以テ議事ノ澁滯ヲ來スノ恐レア  
 リト云フモノアリ即チ兩院互ニ說ヲ異ニシ相確執ス  
 ル時ハ頗ル公務舉テズト云フ夫レ或ハ然ラソ然レモ  
 一院制ノ過激疎暴往々事實行ヒ難キヲ爲サシヨリ  
 ハ寧ロ多少延滯ノ恐レアリト雖モ着實適當事ヲ誤ラ  
 サルニ若カズ堂々タル帝國議院ヲ以テ絶體理想ノ試  
 驗場トナスニ至ラハ恐レテ懼レザルベケンヤ若シ夫  
 レ二院制ニノ事務ノ澁滯セザル様ニ注意セハ既ニ隴  
 ナ得テ又蜀ヲ得タルモノト云フベシ

説明 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヨリ成ル別ニ兩  
 議院ノ關係ハ法律第二號議院法第五十三條ヨリ第六  
 十一條ニ至ルノ條規ヲ以テ之ヲ規定ス例ハ豫算ニ  
 關スル議事ノ外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何  
 レチ先ニスルモ便宜ニ依ル(第五十三條)等ノ如シ

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇  
 族華族及ヒ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

大意 前條上院ヲ論スル所ニ於テ既ニ精密ニ論シタル  
 故今茲ニ略ス(貴族院令第一條ヨリ第七條ニ至ルノ條  
 規參照)

第三十五條 衆議院ハ撰舉法ノ定ムル所ニ依リ公撰  
 セラレタル議員ヲ以テ組織ス



說明 前第三十三條下院ヲ論スルニ當リテ既ニ論シタルヲ以テ今之ヲ畧ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルヲ得ス

說明 抑モ兩院ノ設ケアル所以ハ前ニ論シタル如ク甲院ノ論スル所ト乙院ノ論スル所ト互ニ異ナリタル點ヨリ見解ヲ下シ茲ニ正鵠ノ在ル所ヲ知ルヲ得ルモノナルヲ今若シ甲院乙院互ニ相兼テ議員タルヲ得ルトセハ二院ヲ置クノ効用ヲ見ス若カス始メヨリ一院制ヲ取ラシニハ故ニ泰西憲法學者論シテ曰ク二院ノ議員ハ可成相遠ケルヲ善トスト此言以テ此條ノ精神ヲ知ルヲ得ンカ

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

字義 法律ナル語ノ字義ハ先キニ第九條ヲ講スルニ當リ之ヲ説ケルヲ以テ今之ヲ略ス

說明 君主ハ立法ノ長官ナリ故ニ立法議員ヲ召集延期解散スルヲ得ルハ論ヲ俟タス然レモ一タヒ之ヲ召集シテ之ニ立法權ノ一部ヲ貸シ與ヘ法案ヲ議セシムル以上ハ其議決ヲ得サルヘカラス此議決ヲ經タル法案ニ君主ハ認可ヲ表スルノ權ヲ有シ又不認可ヲ表スルノ權ヲ有スルハ立憲君主國ノ制ナリ英國ト云ヒ白耳義ト云ヒ獨逸ト云ヒ伊太利ト云ヒ各國概テ此ノ如シ只專制君主國ノ魯西亞ノ如キモノハ立法權ハ悉ク其皇帝之ヲ有ス而テ國各其形勢ヲ異ニス未タ必シモ魯

ノ政ヲ以テ魯ニ適セスト云フ可カラズ人若シ魯國ノ  
ピーター大帝ノ爲セル所ヲ詳ニ探リ魯國人民ノ開發  
セル所以及其程度ヲ悟ラハ未タ必シモ其不適當ナル  
コアラサルヲ知ラシ立憲君主國ニ在リテハ君主ハ立  
法ノ長官ナルヲ以テ法案ヲ制可スルノ權ヲ有スルモ  
立法議院ノ議決ヲ歷スシテ自ラ法律ヲ作ルノ權ナキ  
モノトス是レ立憲君主國ノ大体ニシテ陛下此條ヲ設  
ケ賜ヘルハ誠ニ政ヲ吾人臣民ト共ニシテ國家增福ノ道  
ヲ共ニ講セント宣ヘル所以ナリ

### 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決

シ及ヒ各法律案ヲ提出スルコトヲ得

字義 議決 法律ノ議案ハ三讀會ヲ歷テ之ヲ議決ス可

シトアリ(法律第二號議院法第廿七條)但シ政府ノ要求  
若クハ議員十人以上ノ要求ニ依リ議院ニ於テ出席議  
員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルキハ三讀會  
ノ順序ヲ省略スルヲ得トアリ故ニ通常法律案ノ議  
決ハ三讀會ヲ經テ決議スルモノト知ル可シ

說明 兩議院ハ政府ヨリ提出スル法律草案ヲ議決スル  
ヲ得然レモ議院法第廿八條ニアルカ如ク政府ヨリ  
提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決ス  
ルヲ得サルモノトス但シ急須ノ場合ニ於テ別段委  
員ノ審査ヲ經スシテ速カニ議決センヲ政府ヨリ要  
メラル、時ハ委員ノ審査ヲ經ルヲ要セス又各議院ハ  
法律案ヲ提出スルヲ得即チ法律草案ヲ作りテ議院

ヨリ政府ニ提出スルヲ得ルモノトス而テ其手續ハ  
議院法第廿九條ニヨリ凡テ議案ヲ發議シ及ヒ議院ノ  
會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ廿  
人以上ノ賛成アルニアラサレハ議題ト爲スヲ得ス  
トアリ

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ

同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

説明 凡ソ法律案ハ假令ヒ一度兩議院ノ一ニ於テ否決  
サル、コトアルモ尙ホ再三之ヲ提出スルコトヲ得ル  
モノトス蓋シ時勢ノ變遷或ハ議員意見ノ變更等ニ依  
リ其法律案ノ可否ヲ得ルヲアレハ幾度之ヲ提出スル  
モ不可ナク却テ其利アルヲ見ルナリ然リト雖モ否決

シタル會期ト同一ノ會期中ニ於テハ再ヒ提出スルコ  
トヲ得サルハ是レ當時議院ハ該法律案ヲ法律トナス  
ノ必要ヲ認定セザルヲ以テ否決シタルモノニシテ未  
タ時勢ノ變遷議員ノ意見ノ變更ヲ來タスノ暇アラサ  
ルニ再ヒ之ヲ提出スルモ到底可決サルハコトナク却  
テ議事ノ澁滯ヲ來タシ議院ノ煩勞ヲ加フルニ過キス  
故ニ一度兩議院ノ一ニ於テ否決シタルキハ同會期中  
ニハ再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得サル所以ナリ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各々其

意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得  
サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得  
ス

字義 建議トハ議院ノ意見ヲ政府ニ上申スルヲ云フモ  
ノニシテ議院全体ノ意見トナサンニハ其動議三十人  
以上ノ賛成ヲ得テ其ノ議決ヲ經サル可カラズ

說明 立憲君主國ニ在リテハ政府ト議院トハ唇齒ノ補  
佐ヲナシ相互ニ圓滑ニ國政ヲ議セサルヘララス故ニ  
苟モ議院ニ於テ法律其他凡百ノ政務ニ關シ意見ヲ有  
スルキハ之ヲ政府ニ上申シ政府ノ注意ヲ促スコトヲ  
得ルハ素ヨリ其分ナリトス是ヲ以テ議院ハ何時マテ  
モ建議ヲ爲スコトヲ得ルモノト定メラレタリ  
其ノ採納ヲ得タルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議ス  
ルコトヲ得ストシタルハ前條否決サレタル法律案ヲ  
同會期中再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得スト定メタルト

其理一ナリ茲ニ採納ヲ得サルモノハ云々トノ規定ア  
ルヲ見レハ政府ハ議院ノ建議ニ對シ採否ノ指令ヲ下  
スノ義務アルカ如シ何トナレハ指令ナクハ此規定  
ノ必要起ザレハナリ

### 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

說明 議員ハ國民ヲ代表シテ議院ヲ組織成立シ國家重  
大ノ政務ニ參與スルモノト雖モ不斷議事會ヲ開キ居  
ルモノニアラス只タ重要ノ事件起ルニ從ヒテ議會ヲ  
開クノミ然リト雖モ議會本來ノ目的ハ政費供給支辨  
ノ方法適用ヲ討議スルヲ以テ其ノ主眼トスルモノニ  
シテ其ノ政費豫算ノ如キハ毎年議會ノ承諾ヲ經ザル  
ヘカラザルモノナレハ議會モ亦毎年之ヲ召集セサル

へカラズ茲ニ注意ヲ要スルコトアリ憲法第六十三條  
 ニ現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊  
 ニ依リ之ヲ徵收スルトアリ此ノ如ク一タヒ定メタル  
 法律ニ依リ更ニ之ヲ改メサル限ハ年々徵收スルコト  
 ナ得ルトモハ何ノ目的アリテ必ス毎年召集スルモノ  
 ナルヤノ疑ヒヲ起ササルヲ得ス夫レ然リ然ルト雖モ  
 議會ノ召集ニハ他ノ一ノ必要ナル目的ノ存スルアル  
 アリ何ソヤ曰ク歲入適用ヲ議スルコト之ナリ歲入適  
 用ハ其ノ効力單ニ一ケ年ニ止マリ數年永久ニ涉ルコ  
 ト能ハス故ニ政府ニ於テハ現行ノ法律ニ依リ租稅ヲ  
 徵收スルコトヲ得レモ之ヲ適用ハ議會ノ許可ヲ經ス  
 シテ自由ニナスコトヲ得ス則チ政府ハ國庫ノ金ヲ掌  
 握スルト雖モ之カ支辨ヲナスコト方テハ必ス議會ノ評  
 決ニ從ハサルヲ得ス何トナレハ議會ハ政府ノ財政ヲ  
 監督シ其供給ヲ定ムルト俱ニ之カ支出ノ方法ヲモ定  
 メサルベカラサルヲ以テナリ  
 又立法上ヨリシテ云フモハ法律制定モ亦其ノ目的ノ  
 一トス蓋シ往古ノ如ク立法事務ノ誠ニ寥寥ニシテ曉  
 天ノ星モ宵ナラザリシ時代ニ於テハ兎モ角モ漸次法  
 律社會ノ進步シテ今日ノ如ク立法事務日ニ増シ月ヲ  
 追フテ頻繁ナルコト至リ一日モ法律ナクシテ止ム能ハ  
 サル時ニ在リテ此法律ナルモノハ必ス議會ノ議定ヲ  
 經タル上ニアラサレハ以テ法律トナスコト能ハスト  
 規定シタル以上ハ議會ノ召集屢々ナラサレハ時勢ノ

變遷ニ應スルコト能ハズ之レ又毎年議會ヲ召集スル  
ノ必要ナル所以ナリ

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要  
アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトア  
ルヘシ

字義 法律上三十日ヲ以テ一ヶ月トス曆ノ月ニ依ラサ  
ルナリ

說明 議會ハ三ヶ月ヲ以テ一會期トナシ議事ヲ完結ス  
去レトモ必要アル場合ニ於テ到底三ヶ月ヲ以テ議事  
ヲ終ルコト能ハサルハ會期ヲ延長シ三ヶ月以上ノ  
會期トスルコトアルヘシ此會期延長ハ天皇ノ特權ニ屬  
スルモノナレハ勅命ヲ須タサルヘカラス故ニ議會ハ  
自ラ之ヲ延長スルノ權ヲ有セス

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ

外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

說明 本條ハ常會閉會中ニ於テ危急ノ場合生スルハ  
臨時ニ議會ヲ召集スルコトヲ規定セリ而シテ其會期  
ハ天皇之ヲ定メサセラル、モノナレハ必要ノ有無モ  
亦敕裁ニ依ルヘキナリ凡ソ議會ニ常會及臨時會ノ二  
種アリテ會計豫算等ノ如キ豫シメ議會ノ協議ヲ經ヘ  
キモノト定マリタルモノハ毎年ノ常會ニ於テ議スル  
コトヲ得可シ然リト雖モ國家ハ元ト活動物ナレハ人  
身ノ變事ト同シク何時非常緊急ノ事變出來スルモ計

リ難シ斯カル場合ニ遭遇シテハ到底常會ヲ開クヲ待  
ツヘカラス必ス神速ニ之カ處分ヲ施サ、ルヘカラス  
是ヲ以テ議會ヲ臨時ニ開クノ制ヲ定メタルナリ

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會

ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルキハ貴族院ハ同時ニ停  
會セララルヘシ

説明 本條第一項ノ原ク所ノ理由ハ二局院制度ノ必要  
ヨリ由來スルモノトス故ニ茲ニ二局制度ノ必要ヲ概  
論セハ自ラ其ノ趣意ヲ了知スルコトヲ得ヘシ  
二院ノ必要ハ既ニ國會ノ所ニ於テ之ヲ論シタルモ尙  
之ヲ概論セハ左ノ如シ

ミル氏曰ク凡ソ政体ノ如何ヲ問ハエ總テ權力ヲ占有  
スルコトノ專ラナルキハ其ノ占有スル所ノ者ノ如何  
ニ關セズ不知不識ノ間ニ傲慢ノ舉動粗暴ノ措置ヲ施  
スニ至ルハ實ニ免ルヘカラサルノ弊害ナリト又曰ク  
總テ政治上ノ事柄ハ相互ニ打合セ相互ニ遜讓シ和順  
シ以テ事ヲ議シ事ヲ定メ事ヲ行フハ文明政治ニ於テ  
尤モ必要ナル點ニシテ此美德ヲ涵養スルハ實ニ二局  
院制度ノ恩賜ニ因ラサルヲ得スト凡ソ權力ハ其ノ性  
質如何ヲ問ハス政府之ヲ掌握スルモ議院之ヲ占有ス  
ルモ單獨之ヲ專ラニスルトキハ之ヲ濫用スルニ至ル  
ハ人類ノ免ル能ハサル自然ノ性質トス之レ敢テ別ニ  
占有者カ奸惡ノ意旨ヲ挾ムニアラス正直誠實ナル必

ナ以テ權力ヲ使用スルモ尙ホ且免ルヘカテサル所ノ  
 弊害ナリ故ニ議院ノ如キモ單一議院ナラシムルト  
 キハ權力ハ悉ク議院ノ獨專スル所トナリ何程正直誠  
 實ノ議員ヨリ組織スルモ知ラス識ラス權力ヲ濫用ス  
 ルニ至ラン其レ然リ故ニ此弊害ヲ防ガンニハ只二局  
 院ヲ設ケ甲議院隨意ニ法律ヲ制定スルコトナク乙議  
 院亦隨意ニ之ヲ制定スルコトナク互ニ他ノ議院ノ反  
 對攻撃ヲ受ケ折角苦心シテ議定シタル法案モ他ノ議  
 院ノ破毀スルトコロトナリ徒勞無益ニ屬スルコトナ  
 キ様常ニ自ラ謹慎顧ル所アルニ至ラシムルニアルノ  
 ミ斯ノ如ク二局院ノ必要ナル以上ハ其職務ヲ行フニ  
 方テハ常ニ相伴隨シ相輔佐シテ其ノ務メヲナサハル

ヘカラス故ニ開會閉會停會會期延長等兩議院同時ニ  
 之ヲ行ハサルヲ得サルナリ  
 解散ハ衆議院違憲ノ處置アルトキ又ハ時ノ風潮ニ誘  
 ハレ偏頗ノ決議ヲナシタル等ノ時ニ於テ果タシテ國  
 民ノ意思モ議院ト同一ナルヤ否ヤヲ試ミンカ爲メニ  
 行フモノニシテ斯ノ如キ場合ニ於テ衆議院解散ヲ命  
 セラルトキハ貴族院ハ停會セラレ衆議院ノ新召集  
 ナ待チテ再ヒ開會セラレヘシ抑モ貴族院ニ解散ナキ  
 ハ其ノ組織上ヨリ來レルモノニシテ貴族院ハ皇族華  
 族其他勅選議員ヨリ構成セラレ實ニ國民少數ノ種族  
 ヨリ成立スルモノナレハ其ノ輿論ヲ代表スルコト國  
 民大多數ヨリ成レル衆議院ノ代表ニ及ハサルコト遠



シ故ニ施政者ノ常ニ苦慮シ真正ノ輿論公議ヲ聞カン  
ト欲スルノ念ハ一ニ衆議院ニ向テ存スルノミ是ヲ以  
テ世上真正ノ輿論ヲト知セントスルニハ偏ニ衆議院  
ノ解散ヲ命シ新撰議院ノ意見ヲ聞クヲ以テ充分ナリ  
トスレハナリ我國ノ内閣ハ單ニ天皇ニ對シ奉リ其ノ  
責任ヲ負フモノナレド英國内閣ハ議院ニ對シテモ亦  
其ノ責任ヲ負フモノナリ今參考トシテ左ニ英國内閣  
ノ議院ヲ解散スルノ理由ヲ略述スヘシ

抑モ英國内閣ハ下議院ニ對スルモ亦其ノ責任ヲ負  
フモノニシテ内閣ハ實ニ議院ノ信用如何ニ依リテ  
其ノ進退去就ヲ決スヘキモノトス何カ故ニ英國議  
院ハ内閣ヲ進退去就セシムル程ノ勢力ヲ有スルヤ

ト云フニ議院ハ天下ノ公論ヲ代表スルモノニシテ  
其ノ決議ハ取リモナホサス國民總体ノ意思ナレハ  
ナリ然リ而シテ内閣ハ一度議院ノ決議ニ依リ其ノ  
非難ヲ受クルコトアルモ之レヲ以テ直ニ其ノ地位  
ヲ退去スルニ及ハス今一應世ノ輿論ヲ問フコトヲ  
得故ニ一度議院ノ非難ヲ受ケタル場合ニ於テハ現  
存議院ノ解散ヲ命シ其ノ生存ヲ終リ新規議會ヲ召  
集シ其ノ決議ヲ問ヒ以テ輿論公議ノ如何ヲトスル  
コトヲ得若シ亦新撰議院ニ於テモ前議院ト同一ノ  
決議ヲナストキハ始メテ眞ノ輿論ヲ知り世人ノ内  
閣ヲ攻撃スルコトヲトスルニ足り内閣ハ高蹈勇退  
スルノ一途ニ出ツルアルノミ而シテ解散ハ濫リコ

行フコトヲ得サルモノニシテ左ノ理由アルトキハ  
 内閣ハ解散ヲ皇帝ニ勸ムルコトヲ得  
 一重大ナル政治上ノ問題ニ關シ政府ト議院ト議論  
 ノ會ハサル場合  
 二政治上ノ或ル重要ナル處置ニ關シ輿論ニ問フコ  
 トヲ要スル場合  
 三上院下院ノ間ニ調停スヘカラサル紛議ヲ生シタ  
 ル場合  
 左レハ事甚々重大ナラサルトキ又ハ内閣カ新議院ニ  
 於テ多數ノ信任ヲ得ヘキ相當ノ見込ナキトキハ解散  
 スルコトヲ得ス  
 英國ノ政府及議院ノ關係右ノ如シト雖凡國各其人情

歴史ノ差異アリ輕々シク之ヲ直チニ他國ニ適用スヘ  
 カラサルハ固ヨリ論ヲ俟タズ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命  
 ナリテ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五ヶ月  
 以內ニ之ヲ召集スヘシ

説明 衆議院解散ヲ命セラレ、モ議院ハ生存ヲ失フヘ  
 カラス故ニ解散當日ヨリ計算シ五ヶ月以內ニ新議員  
 ノ總選舉ヲナシ之ヲ召集スヘキモノトス此總選舉召  
 集トモニ亦勅命ニ依ル

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上  
 出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ  
 得ス

字義 總議員三分ノ一以上トハ議員總數ノ三分ノ一ヲ  
 モ包含ス例ヘハ衆議院ノ議員總數三百人アリトセハ  
 其ノ三分ノ一ハ一百人ナレハ一見之ヲ考フルトキハ  
 三分ノ一以上ハ一百人ヨリ起算スヘキモノナルカ如  
 ク見ユルモ其實一百人ヨリ起算シ得ベシ何トナレハ  
 我國今日法律適用ノ實際ヲ顧ルニ六年以上八年以下  
 ノ範圍内ニ於テ輕禁獄ニ處スルコトヲ得ルトキハ丁  
 度六年ヲモ包括ス又五錢以上九十五錢以下ノ科料ヲ  
 申付ケルコトヲ得ル場合ニハ五錢ヲモ包含スレハナ  
 リ此ノコトタル實ニ些細ノコトニシテ敢テ意ヲ注ク  
 ノ要ナキモ往々議事ノ際起ルヘキ疑問ナレハ冗長ヲ  
 モ厭ハス之ヲ掲グ

説明 本條ハ議事ヲ開キ及議決ヲナスニ必要ナル員數  
 ナ定メタルモノニシテ凡テノ議事決議ハ議員總數ノ  
 三分一以上ノ出席アルコトアラサレハ之ヲ行フコトヲ  
 得サルモノトセリ

**第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否  
 同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル**

説明 本條ハ議決ヲ定ムルノ方法ヲ規定シタルモノニ  
 シテ其ノ方法ハ議會出席員數ノ半ニ超過スル數ノ論  
 者ノ議ヲ以テ議案ノ可否ヲ決ス例ヘハ議會出席員ノ  
 總數百人アリトセハ五十一人以上ノ說ヲ採ラサルヘ  
 カラス茲ニ注意スヘキハ前條三分ノ一以上ハ正三分  
 ノ一ヲモ包含スルモノナルカ本條過半數ハ無論正半

數ヲ含マサルモノナルコトヲ若シ可否論者同數ナルトキハ議長ノ決ヲ以テ議決ヲ定ム又議論三ツニ分レ何レノ賛成者モ其數出席員數ノ過半數ニ達セサルトキハ決ヲ採ル能ハサルナリ

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求

又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會トナスコトヲ得

字義 公開トハ議院ノ門戸ヲ開キ衆庶ヲシテ議事ヲ傍聽セシムルヲ云フ

説明 凡ソ會議ニ二種アリ公開會議及秘密會議是ナリ此公開會議ハ代議政体ニアリテハ尤モ必要ナルモノトス抑モ議員ノ職務タルヤ國民ヲ代表シテ議會ニ臨ミ國民ノ意思希望ヲ表明シ之カ權利ヲ保護シ之カ利

益ヲ増進スヘキモノニシテ其ノ義務亦重シト謂ハサルヘカラス然ラハ則チ公開ハ議會ノ基礎ニシテ之ヲクシハ議員ハ眞ニ其ノ義務ヲ盡サ、ルノ虞アリ又選舉人ハ議員ヲ信任シテ選舉ヲナスモ議員ニ責任ヲ負ハシメ或ハ訓令ヲ與フルヲ得サルヲ通則トスレハ實際議員ノ才智藝能ヲ知ルノ道ナカルヘカラス且議員モ亦己ノ人民ノ信用ニ適當スルヲ知ラシメサルヘカラス之レ公開ノ必要ナル所以ナリ然リト雖モ如何ナル議會モ總テ公開スヘシト謂フニアラス必要ナル場合ニハ固ヨリ公開セサルモ可ナリ而シテ議會ヲ秘密會トナシ之カ公開ヲ停ムルヲ得ルハ左ノ場合ニ限ルモノトス

一議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ因リ議院之ヲ可決  
シタルトキ

ニ政府ヨリ要求アリタルトキ

### 第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルヲ得

説明 兩議院ノ上奏ハ其ノ動議三十人以上ノ賛成アル  
ニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス而シテ決議ノ上  
上奏スルコトハ定マリタルトキハ議院ハ内閣ヲ經ス  
シテ直接ニ天皇ニ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ其總  
代トシ謁見ヲ請ヒ奉呈スルヲ得ルモノトス此ノ如ク  
兩議院ハ天皇ニ上奏シ或ハ謁見スルノ權ヲ有スト雖  
モ此權ハ議院全体カ有スル所ノモノニシテ議員各  
個ノ資格ヲ以テハ有スルコト能ハサルモノトス抑モ

此權ヲ議院ニ賦與サレアルハ或ハ言路ヲ壅塞シ上下  
其ノ情ヲ通達スルヲ得サルニ至ルモ計ラレサルヲ慮  
リテナリ

### 第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受ク ルコトヲ得

説明 凡ソ請願ニ二種アリ一チ公利請願ト云ヒ一チ私  
利請願ト云フ即チ國家一般ノ利害得失ニ關スルモノ  
ハ公利請願ニシテ一個人一會社一地方ノ利害ニ係ル  
モノハ私利請願ナリ抑モ法律議案ニ二類アリテ全國  
一般ノ利害ニ關スル議案ト一地方一會社一個人ノ利  
害ニ關係スル議案トアリ此議案二種ノ相異ナレル著  
シキ點ハ後者ノ議案ハ固ト議院外ノ人ノ請願ニ起因

ス詳言スレハ一個人一會社一地方人民ノ請願ニ依リ  
 テ其ノ形ヲ生ス然ルニ全國一般ニ關スル議案ハ議院  
 内ニ其ノ形ヲ成シタルモノナリ夫レ議院ノ職分ハ全  
 國一般ノ利益ヲ保護スルヲ以テ本來ノ職分トシ一個  
 人一會社一地方ノ利益ヲ顧ルカ如キハ其ノ第二段ノ  
 職分ト謂ハサルヲ得ス此故ニ議院ハ固ヨリ公利公益  
 ヲ先ニシ私利私益ヲ後ニシ主トシテ公共ノ利益ヲ保  
 護スルヲ務メ僅カニ一部分ノ利益ノ如キハ其ノ直接  
 ノ關係者ノ請願ヲ俟テ始メテ之ニ着手スルモ尙ホ  
 晚シトセス此ノ如ク議院ノ保護ハ單一國全體ニ止  
 マリ一個人一會社一地方ニハ及ハサルヲ以テ特別ニ  
 利害ノ關係ヲ有スルモノハ進ンテ議院ニ請求シ議院

ノ注意ヲ促スハ當サニ其然ラサルヲ得サルモノニシ  
 テ之レ實ニ議院カ臣民ノ請願ヲ受クルヲ得ト定メタ  
 ル本來ノ目的ナリトス  
 人民ノ請願權ハ不羈獨立ノ權利ニシテ決シテ他ヨリ  
 侵害サルヘカラサルモノナリト雖亦必ズ多少ノ制  
 限アルヲ要ス是國家ノ安寧秩序ヲ保護スルニ已ムヲ  
 得サルニ依レルナリ議院法ニハ消極的ニ議院ノ請願  
 書受理ノ權ヲ制限セリ其ノ重ナル條項ハ左ノ如シ  
 第六十六條法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク  
 外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコ  
 トヲ得ス

第六十七條各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クル

コトヲ得ス

第六十九條請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ  
政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院  
之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願  
ヲ受クルコトヲ得ス

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモ  
ノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコト  
ヲ得

説明 兩議院ヲシテ不羈獨立ナラシメ自由ニ其ノ職務  
ヲ行ハシメントスレハ議院ニ與フルニ自ラ院内ノ組  
織整理ニ必要ナル規則ヲ設クルノ權ヲ以テセサルヘ

カラス之レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ其ノ規則  
ハ兩議院各々格別ニ適宜ノモノヲ設クルヲ得ヘシ

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル  
意見及表決ニツキ院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但  
シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ  
方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處  
分セララルヘシ

字義 表決トハ議案ノ通過修正其ノ他凡テ議題ノ決ヲ  
取ルニ臨ミ各議員投票起立等ノ方法ニ由リ其ノ意見  
ヲ表ハスヲ云フ

院外ニ於テ責ヲ負フコトナシトハ議員ハ議院内ニ於  
テ言論自由ノ特權表決自由ノ特權トヲ有スル者ナレ

ハ議院ニ於テ發言表決シタル所ノ事柄ニ付テハ議院外ノ官衙ノ審判彈劾詰問等ヲ受ケサルヲ云フ  
 公布トハ廣ク公衆ニ向テ告クルコトニシテ事柄ノ世間ニ知ラル、チ云フ  
 一般ノ法律トハ普通ノ法律ニシテ國民タル者ハ誰彼ヲ問ハズ皆遵奉スヘキ所ノ法律ヲ云フ  
 説明 抑モ議員ハ議院内ニアリテハ職務上言論ノ自由表決ノ自由ヲ有セサルヘカラサルモノニシテ例ヘハ刑法ニ人ヲ誹毀讒謗スル者ヲ處分スルノ正條アリ若シ此法律議院内ニ於テモ尙ホ其ノ効力ヲ有シ議員ノ言論一言隻句ニテモ誹毀侮辱ニ涉ルコトアラハ刑法上ノ責ヲ負ハサルヘカラサレハ職務上大ニ不都合ヲ

來タスヘケレハ特ニ憲法ニ明文ヲ掲ケ議員ハ議院内ニ在リテハ言論ノ自由アリト規定スルニ至レルモノトス然リト雖モ之レ單ニ議院内ニ於テノミ有スル所ノ特權ニシテ議院内ニ出テ、ハ通常人ト毫モ異ナルコトナシ則チ議院内ニアリテ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタル場合ニハ此特權ヲ及ホスコトナシ故ニ例ヘハ議院内ニ於テ述ヘタル事ヲ印刷出版シテ世ニ公ニスルキハ通常人ト同シク法律ニ照サレ其ノ制裁ヲ蒙ラサルヘカラス之ヲ要スルニ此特權ハ議員職權ヲ執行スルニ當リ他ノ干涉ヲ受ケス自ラ信スル所ヲ發言シ自ラ信スル所ニ依リテ表決スルコトヲ得ルノ權ヲ確定シタルモノニシテ



議院ノ獨立ヲ保チ議員ノ職務ヲ充分盡サシメシカ爲  
メニ設ケタルモノナリ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患

ニ關スル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ

逮捕セララル、ユトナシ

字義 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際

ニ發覺シタル罪ヲ云フ

内亂外患ニ關スル罪トハ刑法第二編第二章第一節及

第二節ノ各本條ニ記載シタル罪ニシテ内亂ニ關スル

罪トハ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其ノ他朝憲ヲ

紊亂スルコトヲ目的トナシ兵ヲ舉ケ若クハ兵ヲ舉ケ

シトスルノ所爲ヲ云ヒ外患ニ關スル罪トハ内亂ニ對

スルノ種ニシテ我刑法ノ規定ニ依レハ其種類ニアリ

一ハ父母ノ國ニ對シ干戈ヲ倒マニシ國ヲ賣ルノ罪一

ハ私ニ外國ト戰端ヲ開キ本國ニ禍害ヲ及ホスノ罪ト

ス

說明 本條亦議員ノ特權ヲ確定シタルモノニシテ議員

ハ會期中通常人ノ如ク逮捕セラレサルモノトス仮令

ヒ議員ト雖モ苟モ犯罪ノ所爲アル以上ハ刑法ノ責ヲ

免ル能ハサルハ當然ノコトナリト雖モ會期中ハ其ノ

院ノ許諾ナクシテ之ヲ逮捕スルコトヲ得ス蓋シ議員

ニ此特權ヲ賦與シタルハ議員ヲシテ他ノ干涉ヲ受ケ

ス自由ニ議場ニ出席セシメ其ノ貴重ナル職務ヲ盡サ

シメシカ爲ナリ抑モ法律ハ國家ノ正義公道ヲ維持シ

之ニ因リテ國家ノ安寧秩序ヲ保ツモノナレハ必要ナル場合ニハ何人ト雖モ之ヲ逮捕スルコトノ至當ナルハ固ヨリ言ヲ俟タス然リト雖モ議員モ亦國家樞要ノ地位ニ立テ國家ノ爲メニ議院ニ入り其ノ職ヲ盡ス者ナレハ僅カニ一身一己ノ爲ニ之ヲ妨クルカ如キハ國民代表ノ主意ニ背反シ甚ナカラサル弊害ヲ國家ニ惹キ起スニ至ルヘケレハ須カラク議員ハ議院内ニ於テ言論自由ノ特權ヲ有スルノミナラス尙ホ身體自由ノ特權ヲモ有セサルヘカラス

此ノ如ク議員ハ身體自由ノ特權ヲ有スト雖モ如何ナル場合ニテモ之ヲ利用スルヲ得ヘキモノニアラス多少ノ制限程度ノ存スルアルアリ即チ現行犯罪及内亂

外患ニ關ル犯罪ノ場合ニハ此特權ノ保護ヲ受クヘカラサルナリ即チ院ノ許可ナクシテ逮捕サル、モノトス

本條ノ明文ニ依ルトキハ會期中トアルガ會期中トハ議會々期ノ繼續スル間ヲ云フモノニシテ犯人ノ所在ハ議會ノ内外タルヲ問ハサルナリ又會期中ト雖モ法庭ハ止ムヲ得サル場合ニ於テハ議院ノ認可ヲ得之ヲ逮捕スルヲ得ヘシ尤モ現行犯罪ト内亂外患ニ關ル犯罪ハ會期中ト雖モ議院ノ許諾ヲ要セス直ニ逮捕スルコトヲ得ルナリ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

説明 本條ハ内閣ノ議院ニ對スル關係ヲ規定シタルモ  
 ノニシテ内閣大臣或ハ政府委員ハ何時タリトモ議院  
 ニ出席シ發言スルコトヲ得ルモノトセリ之レ時ノ内  
 閣ヲ保護維持スルニ必要ナルニ依レルト雖モ又内閣  
 ノ立法上行政上ノ職務ナリト謂ハサルヲ得ス  
 抑モ内閣ハ議案ヲ議院ニ提出シ議員ノ質議ニ對フル  
 ノ義務アリ此ノ議案ノ提出即チ立法職務ハ實ニ重キ  
 ナ占ムルモノト謂フヘシ是レ時ノ内閣其ノ權力ヲ維  
 持シ其ノ地位ヲ固執セントセハ只現行法律ノミニ依  
 リテ行政事務ヲ執行スヘカラス必ス時勢ヲ見國家ニ  
 必要ナル法律ヲ起草シ或ハ現行法ヲ改正シ之カ議案  
 ナリ議院ニ下附シテ其通過ヲ謀ラサルヘカラス然リ而

テ假令ヒ内閣ハ國家ノ必要ニ源キ議案ヲ提出スルト  
 雖モ議院ニ於テ敢テ之カ必要ヲ認めサルコトナキヲ  
 保セス夫レ國家ニ必要ナル法律ノ先後輕重ヲ認識ス  
 ルハ能ク當時ノ國家ノ事情ニ通スル者ニ若クハナシ  
 蓋シ政治當局者ハ常ニ國家ノ利害ヲ以テ自ラ任スル  
 モノナレハ其ノ必要ヲ識別スルヲ得ルモノナリ然ル  
 ニ通常議員ノ考按ハ實際其ノ局部ニ當ル者ノ考按ニ  
 及ハサルコト遠クシテ或ハ必要ナル議案ヲ議定セス  
 シテ不必要ナル議案ヲ討論シ後ニスヘキヲ先ニシ重  
 ンスヘキモノヲ輕ニスル等ノコトモナシトセズ故ニ  
 當局者其ノ先後輕重ヲ差別シ緩急ノ度ニ應シテ之ヲ  
 議セシメ飽クマテ提出議案ヲ維持シ其通過ヲ勤メサ

ルヘカラス又提出案ヲ説明シ議員ノ質議ニ答フルノ  
義務アルモノナリ之レ本條規定ノ必要ナル所以ナリ  
斯ク内閣大臣及政府委員ハ各議院ニ出席シ及發言ス  
ルコトヲ得ルモ議決ニ加ハルノ權利ハ之ヲ有セサル  
ナリ

#### 第四章 國務大臣及樞密顧問

#### 第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任

ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ  
副署ヲ要ス

國務大臣トハ所謂入りテハ内閣ヲ組織シ出テハ各省  
ノ長官タル者ノ謂ヒヨシテ内閣總理大臣ヲ始メ外務

大臣内務大臣大藏大臣陸軍大臣海軍大臣司法大臣農  
商務大臣文部大臣遞信大臣ヲ總稱ス宮内大臣ハ内閣  
員トシテ認ムヘキ者ニアラサレハ國務大臣トハ云フ  
可カラズ何トナレバ宮内大臣ヲシテ内閣員ニ班列セ  
シムルキハ政海ノ餘波施ヒテ皇室ニ及ブヘケレハナ  
リ  
其責ニ任ズトハ万一施政上宜シカラサルコトアリテ人  
民ガ怨ミヲ皇室ニ歸スル如キ事アリテハ最モ不穩當  
ノ事ナル故ニ施政上ノ責任ハ總ヘテ陛下ヲ輔弼スル  
所ノ國務大臣之ヲ負擔スルヲ云フ是天皇ヲ至尊至嚴  
ナル安全ノ位置ニ置キ奉ラシカ爲メナリ  
國務ニ關ル詔勅トハ國家ノ政務ニ關係スル凡テ詔

勅ヲ云フ  
 副署ヲ要ストハ立憲君主政体ノ根本大則タル宰相責任ヲ定ムルカ爲メコ凡百ノ法律勅令又ハ國政ニ關スル詔勅ニハ其ノ責任ヲ負フヘキ内閣大臣天皇ノ御親署御璽ニ副ユルニ其名ヲ署セザルヘカラス是レ法律勅令其他ノ詔勅ニハ國務大臣ノ承諾アリタルヲ表シシ其ノ責任ハ國務大臣之ニ當ルヘキヲ明カニセシガ爲メナリ

説明 本條ハ國務大臣ノ義務ヲ規定シタル條規ニシテ之ヲ復言スレバ左ノ如キ義務アルモノトス  
 一國務大臣ハ天皇陛下ヲ輔弼スヘキモノトス  
 二國務大臣ハ凡テ政務ニ關シ天皇ニ對シ奉リ其責任

ヲ負フヘキモノトス  
 三此責任ヲ確認センガ爲メ國務大臣ハ總テ法律勅令及國務ニ關スル詔勅ニハ御親署御璽ノ下ニ副署スヘキモノトス  
 抑モ吾國ノ政府ハ辱クモ天皇陛下ノ政府ヨシテ其政府ハ主權ノ存スル所ニ支配セラレ其下ニ立チテ活動セザルヘカラス然リ而シテ其主權ハ天皇ノ玉體ニ集台シ諸般ノ政務一ニ至尊ノ總攬セラレトコロトナリ宰相ノ如キモ獨リ天皇ノ任免シ給フノミ而シテ宰相ハ陛下天職ヲ行ハセラル、ニツキ輔弼トナリ奉リ其輔弼タルノ任ヲ以テ國政ヲ行ヒ其ノ責任ヲ負ハザルヘカラス即チ天皇陛下ニ對シ奉リ責任宰相ノ制度

タル所以ナリ斯ノ如ク國務大臣ハ天皇ニ對シ奉リ其責任ヲ負フモノナルヲ確認セシガ爲メ凡テ法律敕令其ノ他苟モ國政ニ關係スル詔敕ニハ國務大臣ノ副署ヲ要シ以テ其ノ責任ノ歸スル所ヲ明カニセルモノトス

凡ソ國務大臣ヲ一國施政ノ責任ヲ負ハシムルノ必要ナルハ歐洲立憲君主政体ニアリテハ皆是認スル所ニシテ英國内閣ノ如キ一方ニハ君主ニ對シ一方ニハ議院ニ對シ其ノ責任ヲ負フ所ノ邦國ニ於ケル宰相責任制度ノ必要ナル理由ヲ述ヘンニ其ノ概略左ノ如シ一君主ヲシテ一國ノ主權及威嚴ノ中心トナラシムル

二立法部ト行政部トヲシテ圓滑ナラシムルヲ夫レ君主ヲシテ一國ノ主權威嚴ノ中心トナラシメシニハ宜ク之ヲ至尊至嚴敢テ侵スヘカラザルノ位置ニ置キ以テ安全鞏固ナラシムルノ方法ナカルヘカラス若シ君主ニシテ一國ノ主權威嚴ノ中心トナラザルガ如キアラハ正シク立憲君主政治ハ變シテ他ノ政体ト更ラザルヲ得ス立憲君主政体ハ以テ成立スル能ハサルニ至ルヘシ夫レ此ノ如ク立憲君主國ニ在リテハ其ノ君主ヲシテ一國主權威嚴ノ中心トナシ至尊至嚴ヲ保持セシメサルヘカラズト雖モ君主萬々一ニモ或ハ施政ノ方針ヲ過ルキハ怨ヲ國家ニ得ルヲナキヲ保セズ從テ其ノ咎責ヲ受ケサルヲ得ス若シ果タシテ君

主其ノ咎責ヲ受ケサルヲ得ズトセバ一令ヲ出シ一則  
 ヲ發スル毎ニ怨王家ニ集リ君主ハ以テ至尊ヲ保テ至  
 嚴ヲ持スル能ハズ故ニ君主ニ代リ其ノ施政ノ責ニ任  
 スベキ者ナカルベカラズ是レ君主主權ノ中心トナリ  
 施政ノ大權ヲ握ルモ宰相其ノ咎責ニ任セザルヲ得ズ  
 トノ制度ノ起因スル所以ナリ又第二ノ理由トスル所  
 ハ立法部ト行政部トチシテ圓滑ナラシムルニアリ抑  
 モ立法部ト行政部トハ各自相互ニ分離獨行セサルベ  
 カラスト雖モ若シ全ク此等二權ヲ分離獨立セシムル  
 所ハ一國施政ハ決シテ其ノ圓滑ヲ望ムベカラズ其ノ  
 運動ノ滑カナランカ爲ニ施政上ノ咎責ヲ受クヘキ宰  
 相ヲ設ケ立法部ニ對シ君主ニ代リテ行政上ノ咎責ヲ

受ケシムルナリ

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依

リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

說明 本條ハ樞密顧問ノ職掌ヲ規定シタルモノナリ抑

モ帝國議會ハ單ニ法律案ヲ議定スルニ過キザレハ天  
 皇ハ之ニ對シ制可ヲ與フベキヤ否ヤヲ御裁斷アラセ  
 ラレザルベカラズ又其他勅令命令等ニ關シテモ其當  
 否ヲ御考察アラセラレザルベカラザルヲ以テ凡テ此  
 ノ如キ重要ナル件ニ至リテハ天皇ノ御諮詢ニ應ヘ之  
 ヲ審議スル所ノ顧問府ナカルベカラズ之レ樞密顧問  
 ノ必要ナル所以ナリ而シテ此樞密顧問ハ天皇陛下最  
 高等ノ顧問官ニシテ明治廿一年四月廿八日公布樞密

院官制ノ所定ニ從ヒ天皇ノ御下問ニ對シ奉リ意見ヲ  
陳述シ國家重要ノ政務ヲ審議ス

今參照ノ爲メ樞密院官制中重要ノ條規ヲ左ニ抄録ス  
ヘシ

第一條 樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢ス  
ル所トス

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ上  
奏シ勅裁ヲ請フヘシ

一 憲法及憲法ニ附屬スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算  
其他會計上ノ疑義ニ關スル爭議

二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附屬スル法律ノ改正ニ關  
スル草案

三 重要ナル勅令(本項勅令ニハ樞密院諮詢ヲ經タル

旨ヲ記載スヘシト)ノ制規アリ憲法ト同時ニ發布  
シタル勅令第十一號貴族院令ノ上諭ノ如キハ右  
ノ旨ヲ記載セリ)

四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草  
案列國交渉ノ條約及行政組織ノ計畫

五 前諸項ニ掲クルモノ、外行政又ハ會計上重要ノ  
事項ニ付特ニ勅命ヲ以テ諮詢セラレタルトキ又  
ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ要スルトキ

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高  
ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

### 第五章 司法



第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
字義 司法權トハ所謂國家最高主權ノ一部ニシテ立法權ニ因リ制定頒布シタル法律ヲシテ其ノ効果ヲ奏セシメ法律ノ臣民ニ與ヘタル權利ヲ保護シ之ニ蒙ラサル義務ヲ執行セシムル所ノ大權ヲ云ヒ總テ法律ヲ傷害スル者アルニ至リテ始メテ施行スルモノニシテ凡ソ法律ヲ傷害スル者アレハ則チ司法權ヲ施行シテ其ノ傷害ヲ除去シ以テ法律ノ尊嚴ヲ顯ハシ國家ノ正義公道ヲ保持シ國ノ平安ヲ計リ國ノ洪福ヲ長スル國家治道ノ最要ナル方術ノ一端ニ屬スルモノナリ

天皇ノ名ニ於テトハ天皇陛下ノ御名ヲ以テ此大權ヲ行フヲ云フ

裁判所ノ構成トハ裁判所ノ組織裁判權ノ範圍裁判官ノ權利義務訴訟ノ手續等ヲ規定スルモノヲ云フ

說明 裁判所司法權ヲ行フキハ天皇ノ御名ヲ以テ之ヲ行フ蓋シ往昔ニ在リテハ何レノ邦國ヲ問ハス君主親シク最高等ノ司法官トナリ聽訟斷獄ノ事ヲ掌リシカド后ニ及ンテ特ニ司法官ノ職起リ輓近立憲君主國ノ制ハ君主自ラ獄ヲ斷シ訟ヲ聽クヲナク一ニ司法官ヲシテ此等ノ事務ヲ行ハシムルニ至レリ然リト雖モ君主ハ固ヨリ司法ノ淵源ニシテ司法官ハ單ニ君主ニ代リテ法律ヲ謹案シ之ヲ行フニ過キズ故ニ君主ハ依然

司法ノ長官タルノ資格ヲ有スルモノナリ我國ニ於テ  
 モ亦然リ故ニ裁判所司法權ヲ行フハ天皇ノ御名ニ  
 於テ然カスルトトハ規定セリ  
 此ノ如ク裁判所ハ天皇ノ御名ヲ以テ司法ノ大權ヲ執  
 行スルモノニシテ司法ノ權ハ一ニ裁判所ノ專握スル  
 所ニシテ裁判所ハ復ニ立法行政ノ二權ト隔絶シ特ニ  
 自立スルヲ要ス故ニ立法官ハ能ク各般ノ法律ヲ制定  
 スルト雖ヒ兼テ法律ニ準據シテ聽訟斷獄ノ官トナ  
 ルヘカラス行政官亦兼テ聽訟官トナルヘカラス且  
 裁判所ハ天皇ノ御名ニ於テ獄訟ノ事ヲ司トルト雖ヒ  
 必ス不羈獨立唯一ニ法律ニ遵據シテ行フアルノミ凡  
 ソ國家ノ法律ヲ保維持續スルハ一ニ法官ノ須職要務

ニシテ利便ヲ計リ有用ヲ濟シ法律ヲ變更スルガ如キ  
 ハ決シテ其職掌ト謂フヘカラス故ニ法官タル者ハ事  
 ノ是非曲直ヲ判斷裁決スルニ臨ミテハ毫モ法律ノ正  
 邪當否ヲ論スルヲナク又他ノ牽制ヲ受ケ或ハ輿論ニ  
 着眼スル等ノヲナク現今規定ノ法律ヲ規矩トシ誠意  
 剛直恒ニ中正不偏ニ裁斷ヲ下シ直者ノ權利ヲ確認シ  
 曲者ノ義務ヲ執行セシメ以テ不正不義橫暴私欲ヲ禁  
 遏スヘキナリ之レ法律ニ依リト規定シタル所以ナリ  
 抑モ何カ故ニ此ノ如ク司法官ヲシテ獨立ナラシムル  
 ノ必要アルカ其理由トスル所概ネ左ノ如シ  
 一裁判ノ公平ヲ保タシメンガ爲メナリ  
 二法律ヲシテ尊嚴ナラシメ以テ其効力ヲ強盛ナラシ

ムルコアリ  
 若シ夫レ官民相争フニ際シ其ノ中間ニ在リテ之カ曲  
 直チ裁斷スル司法官ニシテ立法行政諸部ノ指揮號令  
 ニ從ヒ其ノ檢束掣肘ヲ受クヘキモノナランコハ常ニ  
 臣民ハ枉屈ヲ蒙リ伸フヘキノ權利ヲ張ラス負フヘキ  
 ノ義務ヲ果タスコナクシテ到底公平無私ノ裁決ヲ見  
 ルコト能ハザルニ至ラン故ニ司法官ハ獨立不羈毫モ他  
 ノ掣肘ヲ受クルコトナク官民ヲシテ俱ニ與ニ之ヲ遵奉  
 セシムルヲ要スルカ如キハ是レ司法權ヲ獨立ナラシ  
 ムル必要アルノ一班トス  
 裁判所ノ構成ヲ定ムルノ所以ハ凡ソ裁判所ノ組織裁  
 判權ノ區域廣狹裁判官ノ權利義務等法律ヲ以テ詳悉

之ヲ規定スルニアラズンハ假令如何ナル善良完美ノ  
 法典ト雖モ其ノ効力ヲ全フスルコト能ハス何トナレハ  
 或ハ臨時ニ司法官ヲ任命シ臨時ニ法衙ヲ開設シ臨時  
 ニ訟獄ヲ聽斷シ或ハ當サニ受理審判スヘキモノヲ裁  
 斷セス又ハ受理審判スヘカラザルモノヲ聽斷シ或ハ  
 昨日出訴ノ途ヲ開キ今日之ヲ閉サシ朝ニ實權ト認メ  
 ラレシモノモ夕ニ虛權ト變更スルカ如キコトアラハ折  
 角法律ヲ以テ規定シタル權利義務モ其ノ効力ヲ有ス  
 ルコトナク何ノ活動ヲモ爲サス臣民ヲシテ權利義務ノ  
 何者タルヲ明知スルニ苦マシムレバナリ故ニ臣民ノ  
 權利自由ヲ鞏固ニセシカ爲メ裁判所ノ構成ヲ確定シ  
 タル法律ノ制定ヲ必要トス

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

説明 本條ハ裁判官任免ノ方法ヲ規定シタルモノナリ抑モ近世立憲君主國ニテハ裁判官ハ君主ノ代理官トナリ司法ノ大權ヲ實行スル者ニシテ彼ノ英國ニ於テハ君主ハ各高等裁判所ニ親臨シ居ルモノト假定シ其ノ裁判官ハ君主ニ代リテ裁判スルモノナリトス而シテ君主ニ對スルモノト均一ナル敬禮ヲ受クルノ權利アルモノトシタル如キハ以テ君主ノ代理官タルノ實

證トス此ノ如ク裁判官ハ君主ノ代理官タルノミナラス又司法ノ獨立ヲ維持スルモノナレバ裁判官其人ヲ得サルハ司法ノ公正不偏ナラント欲スルモ豈得ヘケンヤ夫レ臣民ノ生命身體自由榮譽財產等ハ渾テ裁判官ノ智識堪能ヲ俟テ始メテ其ノ尊重スヘキモノトナルヲ得故ニ裁判官ノ學識ニ該博ナルヲ要スルハ固ヨリ論スルヲ俟タス更ニ經驗ニ富メル者ヲ撰擇シ其ノ任ニ充テサルベカラズ若シ夫レ此經驗ト學識トキハ官ニ司法ノ不正ヲ招クニ止マラス尙ホ且裁判所ノ名望ヲ失墜シ司法權ノ獨立ヲ危フス其ノ弊害ノ大ナル恐レザル可クシテ故ニ裁判官トナルニハ通常人ノ能クスベキモノニアラズ相當ノ資格ヲ有スルモ

ノクラザルヘカラス之レ裁判官ヲ任スルハ法律ヲ以テ定メタル資格ヲ具フルヲ要スル所以ナリ  
 天皇陛下一度ヒ裁判官ヲ任命アラセラレタル以上ハ  
 裁判官ノ官職終身ニシテ苟モ免官ノ原由トナルヘキ  
 刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケサル限リハ容易ニ  
 褫奪セラレサルモノトス凡ソ歐米諸國ノ憲法概テ裁  
 判官ヲ以テ終身官ト定メザルハナシ英國ノ如キハ裁  
 判官ニシテ裁判官タルノ資格ヲ失フキハ上下兩院ノ  
 決議ヲ經ルニ非スノハ女王陛下之ヲ免黜スルヲ能ハ  
 ズトセリ抑モ何ノ理由アリテ斯ノ如ク裁判官ノ職終  
 身ニシテ苟モ惡事ヲナサハル以上ハ容易ニ之ヲ褫奪  
 セラレサルノ制ヲ設ケタルヤ蓋シ左ノ二個ノ理由存

スルアルヲ以テナリ  
 一 司法權ヲ不羈獨立ナラシムルヲ  
 二 裁判官ヲシテ法律ニ通曉シ經驗ニ富マシムルヲ  
 裁判官ハ上來屢々述ヘタルカ如ク恒ニ中正不偏ニシ  
 テ國家ノ正義公道ヲ維持シ臣民ノ權利自由ニ對シテ  
 ハ最良ノ保祐タルノ職務ナルニ其ノ地位安全鞏固ナ  
 ラスハ常ニ自己ノ安全ヲ慮ルニ汲々トシ公利公益  
 ノ如キハ措テ問ハサルノ弊害ヲ釀成セン然ルニ裁判  
 官ヲシテ終身其ノ官職ニ在ラシメ苟モ惡事ヲナサハ  
 ル以上ハ猥リニ其官職ヲ褫奪セララル、ノ恐ナク泰然  
 トシテ其職ヲ執リ誠意剛直ヲ以テ公平至正ニ判斷裁  
 決セシメ司法權ヲシテ獨立不羈ナラシムルヲ利益

アルモノトス  
裁判官終身制度ハ右ニ陳述シタル利益ニ加フルニ尙  
ホ他ノ利益アリ即チ裁判官ヲシテ永ク其官職ニ在ラ  
シムルキハ益々經驗ニ富ミ益々法律ニ通曉シ益々世  
人ヲシテ裁判所ニ信用ヲ置クトナリ司法ノ不正ヲ  
救済スルノ効益アルモノトス

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧  
秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ  
又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコト  
ヲ得

字義 裁判ノ對審トハ訴訟關係人相互ニ辨論難詰シ一  
方ハ法律上ノ救済ヲ受クルノ權利アリト主張シ一方

ハ法律上其ノ責ニ任スルノ義務ナシト抗辨シ終ニ裁  
判官ヲシテ其ノ爭議ノ集點ヲ發見シ以テ裁判ノ申渡  
ヲナスニ至ラシムルマテノ手續ヲ云フ  
判決トハ原被兩造ノ對審ヲ經相互ノ爭點ヲ窮メ法律  
上果シテ孰レノ一方ニ權利アリ孰レノ一方ニ義務ア  
ルヤヲ宣告スルコトニシテ或ハ契約ノ執行ヲ命ジ或ハ  
損害ヲ賠償セシメ或ハ何年間ノ苦役ニ服セシメ或ハ  
何月間ノ禁錮ヲ申付クル等凡テ民事上刑事上ノ制裁  
即チ處分ヲ申シ渡ステ云フナリ  
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞トハ若シ國事犯ノ如  
キ種類ノ犯罪ニシテ之ガ公開ヲナスキハ爲メニ人心  
ヲ激昂シ爲メニ國安ヲ害スルノ恐レアルカ又ハ犯姦

罪ノ如キハ世人ノ風儀ヲ傷ケ野卑猥褻ノ醜態ヲ促ス  
 モノアルニ至ルノ憂ヲ云フ  
 法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ニヨリ對審ヲ停ムトハ  
 法律既ニ斯ク々々ノ犯罪ノ對審ハ國家ノ安寧秩序ヲ  
 紊リ斯ク々々ノ場合ノ對審ハ風俗ヲ害スルノ虞アレ  
 ハ衆庶ノ傍聽ヲ禁スト豫定スルヲアリ然リト雖モ如  
 何ナル事件如何ナル場合如何ナル時機ニハ之カ公開  
 ナナスキハ國家ノ秩序ヲ亂リ風俗ヲ害スルモノト凡  
 テ此等ヲ網羅豫定スルヲ到底能クスベカラザレバ  
 或ハ時ニ法律ノ豫定ナキモ公開ヲナシテ治安ヲ亂ル  
 ノ事件風俗ヲ害スルノ場合アラフ故ニ斯カル場合ニ  
 於テハ裁判公開停止ノ權ヲ裁判所ニ附與シ其ノ認メ

チ安寧秩序ヲ紊リ風俗ヲ害スルノ恐レアリトシタル  
 キハ裁判所ニ於テ會議ヲ開キ其ノ決議ニ依リテ公開  
 ヲ停ムルヲアルヲ云フ

説明

本條ハ裁判對審宣告ノヲ規定シタルモノニシ  
 テ凡テ裁判ノ對審宣告ハ公然裁判所ノ門戸ヲ開キ衆  
 庶ノ傍聽ヲ許スヘシ夫レ裁判ノ須要ハ法律ノ吾人臣  
 民ニ賦與シタル權利自由ヲ保護スルニアルモノナレ  
 バ固ヨリ公平無私ナラサルヘカラサルハ敢テ論スル  
 ニ及ハス然ルニ若シ裁判ニシテ密行スルカ如キトア  
 レバ或ハ政府ノ干涉ヲ受ケ或ハ司法官ノ私欲ニ制セ  
 ラレ不幸ヲ罰シ兇奸ヲ免シ法アルニ放チ律ナキニ罪  
 スルモ計ラズトノ如キ疑惑ヲ抱クモノアラフ之レ

公開スル所以ナリ去レド事件ノ種類ニ依リ例ヘハ國  
 事犯又ハ姦淫罪ノ如キハ或ハ其ノ對審ヲ公開シテ却  
 テ國家ノ安寧秩序ヲ紊リ風俗ヲ害スルノ虞アルナ  
 シトセサレバ法律豫シメ公開停止ノ場合ヲ規定シタ  
 ルキハ固ヨリ其ノ法律ニ依リ又仮令ヒ法律ハ豫定セ  
 ラルモ裁判所ノ認メテ以テ國家ノ治安ヲ紊亂シ風俗  
 ヲ害スルモノト思惟スルキハ裁判所内會議ノ決議ニ  
 從ヒ對審ノ公開ヲ停止スルモノトス  
 茲ニ注意スヘキハ前項通則ニ於テハ裁判ノ對審判決  
 俱ニ公開スヘキモノトシ後項變例ニ於テハ唯對審ノ  
 公開ヲ停ムトアリテ判決ノ公開ヲ停ムルコトナシ是レ  
 對審ニハ或ハ治道ヲ誹毀シ或ハ官吏ヲ侮辱シ或ハ猥

褻ノ語ヲ吐ク等ノコト往々ニシテ之レアルモノナレハ  
 之レカ公開ヲ許スキハ秩序ヲ紊リ風俗ヲ害スルノ虞  
 ナシトセス然レモ判決ハ只裁判ノ宣告ヲ爲スニ過ギ  
 ズシテ決シテ此ノ如キ虞アルコトナシ故ニ對審ノ公開  
 ヲ停ムルコトアルモ判決ノ公開ヲ停ムルコトナシト  
 ス

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノハ別ニ  
 法律ヲ以テ之ヲ定ム

字意 特別裁判所トハ通常裁判所ニ對スルノ名稱ニシ  
 テ陸海軍ノ軍法會議ニ屬スル事件ノ如キモノヲ管轄  
 スル所ナリ

說明 何か故ニ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論スベキモ



ノ即チ軍事犯ニ關スル爭訟ハ特ニ通常裁判所ニ委任セズシテ特別裁判所ニ管轄セシムルヤ蓋シ軍事ハ特ニ將校兵士ヲ檢束シ且警戒シテ職務ヲ獎勵シ約束ヲ嚴明ニシ信賞必罰毫モ假ス所ナキニ非サレバ軍機ヲ失ヒ秩序ヲ紊ル等ノ憂ヒアルヲ以テ勢ヒ通常裁判所ノ管轄ニ屬スベカラサルナリ加之是ノ如キ裁判權ハ其ノ性質國家ノ司法權ニ屬スベキモノニアラズシテ國家ノ兵權ニ屬スルモノトス是レ特別裁判所ノ管轄スベキモノヲ定メザルヲ得ザル所以ナリ

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノハ司法裁

判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

字義 行政官廳トハ行政諸部ノ諸役所ニシテ省院廳ヲ始メ苟モ行政ノ途ニ當ルモノヲ總稱ス

違法處分トハ行政法ノ規定ニ背馳シタル處置ニシテ例ヘバ収稅官収稅ヲナスニ當リテ職權外ニ出テ、事ヲ處理シ郡區長人民ノ公證ヲ請求スルニ何ノ理由ナクシテ之ヲ拒絕スルカ如キ處置ヲ云フ

説明 本條ハ行政官廳ト人民トノ間ニ起リタル訴訟ノ管轄ヲ定ムルモノニシテ凡ソ行政官廳其ノ職務ヲ執行スルニ當リテ行政法ノ規定ヲ遵守セズ濫リニ其ノ範圍外ニ出テ、事ヲ處斷シ爲メニ人民ノ權利ヲ侵害シタルキハ其ノ訴訟ニシテ豫シメ法律ノ行政裁判所

ノ管轄ニ屬スヘキモノト規定シタル種類ノ件ハ固ヨ  
リ行政裁判所ノ受理裁決スヘキ所ノモノニシテ司法  
裁判所ノ受理スヘキモノニアラズ之レ司法權ト行政  
權トノ衝突ヲ豫防スルニアルナリ

### 第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法

律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納  
金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ  
負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經  
ヘシ

字義 稅率トハ租稅ノ賦課徵收ノ歩合ヲ云フモノニシ

テ例ヘハ地租ハ地價金ノ百分ノ二ケ半ヲ徵收シ所得

稅ハ入額ノ幾歩合ヲ賦課スル如キ租稅ノ目安ヲ云フ

報償ニ屬スル行政上ノ手数料其ノ他ノ收納金トハ行

政廳ノ勞力ニ對シ其ノ報償トシテ收納スヘキモノヲ

云フ例ヘハ登記ノ手数料裁判宣告書ノ謄本料郵便料

電信料等ノ如キモノヲ云フ

國債トハ國家ノ擔フ所ノ負債ヲ云フモノニシテ此國

債ヲ起スハ一ケ年ノ支出ヲ數多ノ年度ニ分配スルモ

ノニシテ恰モ支出ヲ他日ニ於テスル爲替ノ如シ而シ

テ此國債ヲ起スハ或ハ歲出ト歲入トノ間ニ生シタル

不權衡ヲ補ハンカ爲ニシ或ハ鐵道電信溝渠等ノ新事

業ヲ起スガ爲ニシ前者ヲ理財公債ト云ヒ後者ヲ起業公債ト云フ是等二種ノ公債ハ元ト大ニ其ノ性質ヲ異ニシ理財公債ハ全ク財政上ノ欠乏ヲ補充スヘキ目的ヲ有シ之ニ反シテ起業公債ハ殖産上ノ目的ヲ有スルモノトス

國庫ノ負擔トナルヘキ契約トハ國家カ金錢上ノ負擔ノ責ニ任セサルヘカラサル凡テノ約束ニシテ金錢借入等ノ如キ契約ヲ云フ

說明 抑モ立憲政体國ニ在リテハ君主財政ヲ監督スルノ權力ヲ國會ニ附與スルヲ通則トス夫レ財政處理ノ權利ヲシテ之ヲ政府ニ一任スルキハ弊害ヲ生セサルモノ殆ノド稀ナリ凡ソ西洋各國古來ノ歴史ニ徴スル

ニ人民ノ虐政ニ困弊スルハ多ク財政ノ点ニアリテ政府此權ヲ濫用スルニアリ故ニ政府ノ專横ヲ掣肘セシト欲セバ之カ監督ヲナスモノナカルヘカラス是レ立憲政体國ニ在リテハ必ス其國會ヲノ財政ヲ監督スルノ權利ヲ掌握セシムル所以ナリ故ニ吾國ニテモ租稅賦課徵收又ハ稅率變更等國庫收入ニ關涉影響スルトハ一ニ法律ヲ以テ定ムルトシ凡テ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スト定メラレタルハ最モ適當ナルモノト云フヘシ然レモ行政上ノ手数料其ノ他ノ收納金ハ假令ヒ國庫ニ納ムヘキモノナルモ其ノ性質タル報酬ニ屬スベキモノニシテ租稅ノ性質ヲ有セズ故ニ此等ニ關シテハ敢テ議會ノ協賛ヲ要セザルナリ

國債ハ政治上重要ノ關係ヲ有シ其ノ租稅徵收ニ影響及ボス甚カラザルヲ以テ帝國議會ニ於テ之ヲ監視シ國債ヲ起ス一ハ勿論其ノ詳細ナル規則ニ至ルマデ悉ク皆立法ノ道ニ依リテ決定スルモノトス此ノ如ク財政ニ關シテハ一ニ帝國議會ノ監督ヲ受ケ其ノ協賛ヲ要スルヲ以テ既ニ豫算表ニ項款ヲ設ケ議會ノ承認ヲ經タルモノニアラサル以上ハ苟モ國庫ノ負擔ニ屬スヘキ契約ヲナスニハ議會ノ翼賛ヲ經サレハ取結ブテ得ザルナリ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メ

サル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

說明 凡ソ租稅ハ法律ヲ以テ之ヲ變改スル迄現行ノ法

律ニ從ヒ之ヲ徵收スヘキモノニシテ新規租稅ヲ課シ又ハ稅率ヲ變更スルノ法律發布セザレハ該年度ニ於ケル租稅徵收ノ方法ハ舊ニ異ラズ故ニ現行ノ法ニ依リ之ヲ徵收スルモノトス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國

議會ノ協賛ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ルヲ要ス

字義 國家ノ歲入トハ租稅及ヒ其ノ他一切ノ收納ヲ云ヒ歲出トハ一切ノ經費ヲ云フ歲入出豫算表ハ豫期ノ歲入及歲出ノ要領ヲ擔保シ以テ豫シメ收入ト支出トノ間ニ於ル平均ヲ確定スルモノヲ云フ故ニ歲入ト歲

出ハ其額ノ未定ナルモノニアリテハ最近年度ノ平均額ニ從ヒ極メテ精密ニ算定セサルヘカラサルモノナリ

豫算ノ款項ニ超過シタル支出トハ兼テ前ニ議會ニ提出シタル豫算中某項款ノ支出必要已ムヲ得サルノ事故ニヨリ既ニ議會ノ承諾ヲ得タル定額ヨリ過多ノ經費ノ支拂ヲ云フ

豫算外ニ生シタル支出トハ豫期セサル臨時非常ノ場合ニ於テ爲シタル支拂ヲ云フモノニシテ豫算ニ掲ゲタル項目以外ノ支出ナリ

説明 抑モ國家財用ノ政ハ政府特ニ之ヲ司ルヘキモノニシテ議院ヲシテ司ラシムヘカラス然リト雖ハ議院

ヲシテ政府財用ノ政ヲ監視セシムルヲ要ス是レ蓋シ政府財用ノ政ヲシテ廉正儉約ナラシメ且歳入宜シキヲ得歳出其趣旨ニ適ヒ以テ國家ノ公益ヲ保維センカ爲メニハ尤モ緊要ナル制度ナルヲ以テナリ故ニ政府ノ毎年歳入歳出ノ徵收適用ハ其ノ豫算ヲ前年ノ帝國議會ニ提出シ其ノ協賛ヲ俟テ始メテ執行スルヲ得ヘキノミ即チ毎年政府ヨリ歳出入ノ豫算表ヲ作り政府カ必要トスル所ノ政費ヲ定メテ之ヲ議會ノ評議ニ附ス而シテ帝國議會ハ其ノ豫算ニ依リ幾許ノ國費ヲ供スヘキカナヲ討議シテ供給支出金額ノ當否ヲ決定スルモノトス

此ノ如ク國家一切ノ財政ハ議會ノ協賛ヲ經始メテ之

チ行フヲ得ヘキモノニシテ苟モ議會ノ協賛ヲ俟タズ  
 シテ行フタル財政ハ悉ク不當無効ニ屬スヘク毫厘タ  
 リトモ其ノ結果チ人民ニ負擔セシムヘカラサルナリ  
 且豫算款項ノ額ニ超ヘ或ハ豫算項目中ニ掲ゲザル臨  
 時ノ支出アルキハ議會ノ事後ノ承諾ヲ求メサルヘカ  
 ラサルモ亦此理ニ外ナラズ然リ而シテ此等支出ニシ  
 テ万一不當ノ處分ニ出テ議會承諾ヲ與ヘサルコトアル  
 モ最早支出セシ以上ハ之ヲ如何トモスルコト能ハズ只  
 主務大臣ノ責任ニ歸スヘキノミ

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

説明 凡ソ政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レチ先  
 コスルモ便宜ニ依ルト雖モ豫算ハ前ニ衆議院ニ提出

セサルヘカラズ抑モ國民ノ最大多數ハ平民ニシテ貴  
 族ノ如キハ實ニ僅少ナル部分ヲ占ムルニ過ギズ故ニ  
 一國ノ政費ハ殆ンド其全額ヲ平民ニテ負擔支辨シ貴  
 族ノ如キハ政費ニ關シ極メテ少負擔ヲ有スル者ナリ  
 斯ノ如ク政費ハ大概平民ノ負擔スル所ノモノナレバ  
 金錢ニ係ハル法律ハ一令一則悉ク平民ノ休戚ニ其ノ  
 影響チ及ホサルモノアルコトナシ是ヲ以テ政府ノ豫  
 算ハ前ニ衆議院ニ提供シ其ノ意見ヲ聞キ以テ國民多  
 數ノ向背ヲト知セサルヘカラズ蓋シ衆議院ハ天下全  
 體ノ公議輿論ヲ代表スル所ニシテ其ノ議決ハ國民總  
 體ノ意見ナレバ最初ニ之ニ向テ可否ヲ問フハ固ヨリ  
 至當ノコトト嘆稱セサルヲ得ズ然ラハ初メニ衆議院ニ

於テ金錢案ヲ否決シタルキハ貴族院ハ最早殆ト之ヲ  
 成立セシムルヲ能ハサルナリ故ニ本條ノ規定ハ實ニ  
 國家財政ノ基本ヲ定ムルニ關シ大ナル權力ヲ衆議院  
 ニ與ヘタルモノニシテ尤モ著シキ特權ト謂ハサルヲ  
 得ズ衆議院ノ貴族院ト其權力ヲ異ニスルハ眞ニ此一  
 事ニシテ又衆議院ノ地位ヲ重且大ナラシムル所ノモ  
 ノモ亦此一事ニアリテ存ス畢竟如此大權ヲ有スレバ  
 コソ議會ヲ毎年召集スルノ必要ヲ生スル所以ナレ  
 本條ノ規定ニ關シ參考ノ爲メ英國下院ノ金錢案ニ對  
 スル特權ヲ略述セン

英國ニ於テ下院ノ重大ナル特權ヲ有スルハ全ク國  
 家財政ノ基本ヲ掌握スルニ由レルモノトス政府ハ

毎年收入支出ノ豫算表ヲ作り政府ノ必要トスル政  
 費ヲ定メ之ヲ下院ノ議ニ附シ下院ハ此豫算表ニ由  
 リ幾許ノ政費ヲ供給スベキヤヲ討議シ其徵收スル  
 ノ方法ヲ議シ以テ租稅ヲ賦課ス加之其各費目ニツ  
 キ定額ヲ定ムルノ權亦下院ニ屬ス是ニ由リテ之ヲ  
 觀レバ金錢案ニ關シ下院ノ有スル特權ハ(一)供給額  
 ノ當否(二)供給ノ方法即チ租稅賦課(三)政費支辨ノ適  
 用ヲ定ムルニアリ而シテ金錢案ニ關シテハ下院ハ  
 發議ノ權ヲ有シ上院ハ全ク之ヲ可決スルカ又ハ否  
 決スルカノ二途ニ出ツルノミマシテ之レカ修正ヲ  
 ナスヲ得サルナリ  
 金錢案ニ關シ他ノ議案ト相違スル重ナル點ハ

一下院ハ最初ニ發議シ上院ハ之ニ對シテ修正權ナ  
 キコト  
 一下院ハ女王ノ勅旨ヲ待テ之ヲ議スルコト  
 下院ハ必ズ内閣ヨリ下附スル所ノモノニアラサ  
 レバ決シテ議事ニ附スルコトナシ又議員ヨリ提出  
 スルモノナルハ豫メ内閣ノ承認ヲ要ス  
 此制規ハ歴史的ト必要的トヨリ起因セリ往古帝  
 室費ト政費トヲ混淆シ帝室費ヲ以テ政費ヲ支辨  
 シタリシ時ニ在リテハ帝室ヨリ財用不足ノ高チ  
 示サレ人民ハ其不足ヲ補ヒタルモノニシテ今日  
 ニ及ブモ帝室ヨリ通知アルニアラサレバ何等ノ  
 請求ト雖モ之ヲ受理セズ之レ歴史的ノ原因トス

又議院カ自由ニ租稅ヲ徵收スルノ權ヲ有スルハ  
 ハ大ナル弊害ヲ來スノ恐レアリ須ラク財產ノ徵  
 收使用ニ付責任ヲ負フヘキモノナカルベカラズ  
 何トナレバ議院ハ元ト無形人ナレバ到底之レニ  
 向ツテ責ヲ負ハシムルコト能ハズ亦議員ニ向ツテ  
 モ其責ヲ負ハシムルヲ得ズ何トナレバ議員必ズ  
 曰ハシ議會ノ多數ニヨリ決議シタルモノナレバ  
 敢テ與リ知ル所ニアラズト是ヲ以テ其責ニ任  
 ズヘキ者ノ必要ナルコト感ズヘシ之レ必要的ヨ  
 リ來レル原因ナリトス故ニ必要ナル政費ハ皇帝  
 之ヲ下院ニ要求シ下院之ヲ供給シ上院之ヲ贊成  
 スルモノトス之ヲ裏面ヨリ窺フハ皇帝之ヲ要



求セサレバ下院之ヲ議スベカラサルナリ  
 一 全院委員會ヲ開キ評議ヲ始ムルヲ  
 全院委員會ハ分チテ二種トナシ一チ供給議定ノ  
 委員會トシ一チ調達議定委員會トス前者ニ在リ  
 テハ費用ノ目的ト支出ノ額ヲ定メ而シテ後議員  
 ノ資格ヲ以テ開會セル議會ニ於テ金額ヲ議定ス  
 ルモノトス後者ニアリテハ假令ヒ金額ヲ議定ス  
 ルモ其ノ出處ヲ知ル能ハサレバ更ニ之レヲ定メ  
 現存ノ歲入ヲ以テ各費目ニ適用シ不足アルキハ  
 新稅ヲ賦課徵收ス

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫  
 ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝

國議會ノ協賛ヲ要セス

說明 皇室ノ尊嚴ヲ維持セシニハ皇室ノ財計ヲシテ適  
 當ナラシメサルヘカラス然ルチ若シ今議會ニ於テ政  
 府一般ノ經費ノ支出ヲ彼此討議スルト同シク皇室ニ  
 納ムル國庫ノ支出ニモ其喙ヲ容ル、コアルキハ自ラ  
 皇室ノ尊嚴ヲ滅殺スルカ如キ結果ヲ生スルモ計リ難  
 シ言ヲ喚ヘテ之ヲ云ハ、皇室コノ政海ノ餘波ヲ蒙ム  
 ルニ至ラン斯ノ如キハ之レ實ニ我皇室ノ基礎ヲ危ス  
 ルモノナレバ殊ニ本條ヲ憲法ニ記載シ苟モ毎年國庫  
 ヨリ支出スヘキ皇室經費ニ増減ナクンハ敢テ議會ノ  
 協賛ヲ要セサルモノトセリ最モ適當ナルモノト云フ  
 へシ

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツク既定ノ歳出及ヒ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

字義 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出トハ例ヘバ天皇或ハ立法ノ長官或ハ司法ノ長官或ハ行政ノ長官或ハ陸海軍ノ元帥タルノ資格ヲ以テ行ハセラル、大權ノ施行若クハ其他憲法ニ於テ規定セル國家ノ機關ノ成立運轉等ニ關シテ要スル所ノ經費ニシテ既ニ其額ノ定マリタルモノヲ云フ

法律ノ結果ニ由ル歳出トハ例ヘバ今一ノ現行税法アリトセンニ此税法ヲ運用シ以テ租稅ヲ徵收スルキハ

其ノ結果トシテ勢ヒ生セサルヲ得サル所ノ經費即チ徵收費ノ如キ凡テ法律ヲ以テ施行ヲ命シタル事ヲ行フカ爲メニ要スル一切ノ費ヲ云フ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ例ヘバ政府國債ヲ募集セルトキ其ノ應募者ニ支拂フベキ利息又ハ元金拂戻等ノ歳出ノ如キヲ云フ

說明 今若シ第十條ノ規定ニ依リ天皇司法官ノ員數俸給ヲ定メサセラレタリトセンニ是等俸給ニ關シ帝國議會濫リニ喙ヲ容レ之カ廢除削減ヲナスキハ勢ヒ司法官ノ員數ヲ減シ多少免官セシメサルベカラズ然ルニ第五十八條ニ裁判官ハ其官職ヲ免セラル、トナシトノ必要ナル規定アルニアラズヤ而シテ若シ議會ニ

於テ之カ廢除削減等ヲ自由ニ爲スヲ得ルトキハ是レ  
 實ニ國家ノ大典ヲ汚損シ司法權ノ獨立ヲ蹂躪スルモ  
 ノト謂ハサルヲ得ズ又法律ノ結果ニ由レル歳出ヲハ  
 廢除削減スルキハ忽チ法律ノ運轉ヲ停止シ之カ活用  
 ヲ望ムヘカラサルニ至ラン抑モ議會カ立法ノ權ニヨ  
 リ法律ノ制定ヲナスハ畢竟議會カ其ノ法律ノ必要ヲ  
 認メ之カ活動運轉ヲ欲スルニ外ナラズ然ルニ斯ク一  
 方ニ於テハ法律ノ活用ヲ望ミナガラ一方ニ於テハ之  
 カ運轉ヲ停止スルカ如キハ所謂自家撞着ノ所爲ト評  
 セサルヲ得ズ議會豈此ノ如キヲ欲センヤ法律上政府  
 ノ義務ニ屬スル歳出ニ關スルモ亦然リ苟シモ政府法  
 律上ノ義務ヲ負擔シ其ノ履行ヲ果サン爲メニ支出ス

ル所ノ歳出ニシテ議會ノ廢除削減スル所トナラバ政  
 府ハ到底其ノ義務ヲ終ユルヲ能ハズ從ツテ政府ノ信  
 用ヲ失墜シ施ヒテ其ノ影響ヲ政治ノ機關ニ及ホスニ  
 至ラン之レ帝國議會ハ是レ等三種ノ歳出ニ關シテハ  
 政府ノ同意ナクシテ廢除又ハ削減スヘカラザルモノ  
 ト規定シタル所以ナリ

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定

メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

字義 繼續費トハ毎年幾許ノ費用ヲ或年限間繼續シテ  
 支出スル費目ヲ云フ

説明 特別ノ須要ニ因リ政府ハ繼續費ナル項目ヲ置キ  
 議會ヲシテ數年間ヲ操上ケテ要スヘキ費用ヲ一時ニ

議定セシムルヲ得例ハ國防ノ必須ニ因リ各所ニ砲臺城塞ヲ築キ船艦ヲ準備セサルヘカラサル場合ニハ豫シメ其ノ費用ノ全額ヲ見積リ之ヲ毎年ノ事業ニ分割シ悉皆事業ノ竣功ニ至ルマデノ年限ヲ定メ毎年其ノ分割額ヲ繼續費トシ支出スルノ協賛ヲ求ムルヲ得ルガ如シ而シテ議會ノ協賛ヲ經數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費ノ總額ヲ定メタルキハ毎年度ノ支拂ニ殘額ヲ生スルコトアルモ竣功年度ニ至ルマテ順次次年度ニ操越シ繼續使用スルヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲メニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲

ニ豫備費ヲ設クヘシ

説明 事情已ムヲ得サル非常ノ場合ニ際シ豫算ニ掲クル歳入歳出ノ間ニ平均ヲ立ツルヲ能ハスシテ不足ヲ生シ又ハ豫算ニ掲クル費目ノ外ニ必要ノ費用生シタルキ若シ少シノ準備金ガモ豫備セサルキハ財政整理上甚シキ不都合ヲ醸スニ至ルヘケレハ豫メ之レヲ補充セシ爲メ豫備費ヲ設ケ置カサル可カラズ  
 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ第一預備金ト第二豫備金ノ二項ニ分チ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノチ第一豫備金トシ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ルモノチ第二豫備金トス  
 豫算金ヲ以テ支辨シタルモノハ年分經過後帝國議會

ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル  
場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召  
集スルコト能ハサルトキハ勅命ニ依リ財政上必要  
ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提  
出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

説明 本條ハ議會閉會中ニ於テ危急ノ場合ニ處センカ  
爲メ政府ハ勅命ニヨリ財政上必要ナル處分ヲナスヲ  
得ルヲ示シタルモノナリ蓋シ其ノ場合トハ例ヘバ  
俄ニ内亂外寇等ノ事變生シ國家ノ獨立公共ノ安全ヲ  
保タンカ爲メ非常ノ戰費ヲ要シ緊急ノ需用ヲ來タシ

且内外ノ情況ニ因リ或ハ時ヲ過テ機ヲ失スルノ恐レ  
アリテ到底議會ヲ召集シ之レカ協賛ヲ求ムルノ暇ア  
ラサルトキハ勅命ニ依リ財政上必要ナル處分ヲ施ス  
ヲ得ルナリ去レド斯ノ如キ場合ニ於テハ必ス次會  
期ニ於テ議會ノ事後ノ承諾ヲ求メサルベカラズ

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫  
算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施  
行スベシ

説明 帝國議會ニ於テ政府ノ提出シタル豫算ヲ議定セ  
ス或ハ之カ成立ニ至ラサルトキハ次年度ノ會計ハ前年  
度ノ豫算ニ依リテ之ヲ處辨スルモノトス何トナレバ  
會計年度ニ入ルモ未ダ豫算ノ議定成立ナキトテ會計

ヲ停止スル能ハサルハ勿論且前年度ノ豫算ハ既ニ議會ノ協賛ヲ經タル者ニ前ニ異論アラザレバナリ

第七十二條

國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之

ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之レヲ帝

國議會ニ提出スベシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

字義 決算トハ會計年度ノ初ニ於テ豫算書中ニ確定シ

タル國費供給及支出等ノ計畫ノ會計年度經過後如何

ナル成績ヲ現ハシタルヤヲ明示スルモノニシテ政府

ハ之ヲ議會ニ提出シ以テ財政ニ關スル其ノ責任ヲ解

クモノトス

會計検査院ハ決算ヲ検査確定シ其ノ報告ヲナス所ノ

中心トナリ政府ノ會計ヲ監視シ及ヒ之カ準備ヲナス

ノ官衙ニシテ該院ハ純然タル一個ノ獨立衙門ナリ

説明 抑モ會計ノ検査ハ極メテ嚴密精覈ヲ旨トシ瑣細

ノ收納支出ニ至ルマテ之レヲ吟味穿鑿セサルベカラ

サルモ斯カル瑣末ナル收納支出ヲ精密ニ検査スルコ

ト甚タ煩雜ナルモノニシテ到底議會ノ能ク耐ユル所

ニ非サルナリ故ニ此検査ヲ以テ其ノ專務トスル會計

検査院ナルモノヲ置キ之レニ検査ヲ囑托ス而シテ會

計検査院ノ重ナル職掌ハ各種ノ出費ヲ豫算ノ額ト比

較シ其ノ可否ヲ調ブルコト、一切ノ出費ノ證左ノ有無ヲ

調ブルコト、國家ノ所領及ヒ官庫ニ現存スル諸物ヲ監視

スルコト、國債ヲ監視スルコト等ナリトス政府ハ決算ニ此

會計検査院ノ検査報告ヲ添附シ帝國議會ニ提出スル  
 モノトス而シテ其ノ決議ニ明記スベキ要領ハ左ノ如  
 シ

- 歳入豫算額
- 歳調定濟歳入額
- 入收入濟歳入額
- 收入未濟歳入額
- 歳出豫算額
- 歳豫算決定後増加歳出額
- 出仕拂命令濟歳出額
- 翌年度繰越額

之ニ加フルニ検査報告書、各省決算報告書、國債計算書

及ヒ特別會計々算書トテ以テス  
 斯ノ如ク政府ヨリ決算ト報告書ヲ議會ニ提出スルキ  
 ハ議會ハ政府ノ辨明ト検査ノ報告トヲ對照審査シ之  
 ナ正當ト認定スルキハ以テ本年ノ會計ヲ大成スルモ  
 ノトス

會計検査院ノ組織權限ハ別ニ法律ヲ設ケ之ヲ規定ス

### 第七章 補則

補則トハ以上既ニ規定セル所ノモノ丈ハ固トヨリ確  
 定ノモノナリト雖モ過去ニ於テ存セル事件ニ關シ此  
 憲法ハ如何ナル効力ヲ有スルヤ又將來此憲法ヲ變更  
 スル等ノ事アル時ハ如何ナル手續ヲ要スルヤ等ヲ規  
 定スルモノニシテ此ノ憲法自親現在ノ事ニアラス其過

去ニ有スル効果及將來ニ於テノ變更等ノ事ヲ規定セ  
ルモノナリ

第七十三條 將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アル  
ルハ救命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付ス可シ  
此場合ニ於テ兩議院ハ各其總員三分ノ二以上出席  
スルニアラサレハ議事ヲ開クヲ得ス出席議員三分  
分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ  
爲スヲ得ス

說明 憲法ハ素ト建國法ノ謂ニシテ國家一切ノ法律ノ  
大則ヲ定メ且ツ主治者被治者ノ權利義務ヲ定メ國體  
ヲ確カムルモノナルカ故ニ實ニ國家ノ根本ナリ基礎  
ナリ若シ此法ニ履變シ履動シテアラハ一切ノ法律

常ニ動搖シ國體モ亦定マラス治者被治者交相爭テ爭  
亂止ム時ナカラソ此故ニ憲法ノ變更ハ鄭重ノ上ニモ  
鄭重ヲ加ヘサル可カラス先キニ憲法ノ分類ヲ説ケル  
ニ當リテ不定憲法及ヒ固定憲法ノ別アリト云ヘリ不  
定憲法トハ通常法律ノ制定變更廢止ノ方法ト同一方  
法ニテ制定變更廢止シ得ル憲法ヲ云ヒ固定憲法トハ  
通常法律ノ制定變更廢止ト異ナル方法ニヨリ制定變  
更廢止スル憲法ヲ云フ獨佛米等ノ憲法ハ何レモ固定  
憲法ニシテ特ニ其制定變更廢止ノ方法ヲ他ノ法律ト  
異ナラシム例ハ獨逸帝國憲法第七十八條ニ於テ憲  
法ノ改正ハ立法ノ方法ニ依ル但聯邦會議ニ於テ十四  
以上ノ反對投票アルトキハ其改正案ヲ廢止ト見做ス



ヘントアルカ如シ又合衆國ノ憲法ヲ變更改正スル方  
 法ハ憲法第五條ニ規定ノ曰ク若シ國會上下兩院ノ三  
 分ノ二以上ノ發議ニ依テ憲法ノ改正ヲ必要トスル時  
 又ハ合衆國諸洲ノ三分ノ二以上ノ立法院ニ請求ノア  
 リシ時ハ國會ハ憲法改正ノ爲メニ人民會議ヲ開クベ  
 シトアルカ如シ畢竟憲法ノ變更改正等ハ他ノ法律ノ  
 變更廢止ニ比シテ遙ニ重要ナルカ故ニ其方法ヲ規定  
 スル最モ謹嚴ナルノミ我國ノ憲法モ即チ固定憲法ニ  
 ノ若シ眞ニ之ヲ改正スルノ必要アル時ハ救命ヲ以テ  
 天皇ヨリ其議案ヲ帝國議會ニ付スルモノトス而テ此  
 場合ニ於テ兩議院ハ各其三分ノ二以上出席セサレハ  
 議事ニ開クヲ得ス即チ下院ニテモ上院ニテモ三分

ノ二以上(下院議員ヲ三百名トスルキハ二百人以上出  
 席シ上院モ亦其員三分ノ二以上)出席セサレハ議スル  
 ヲ得ス又現ニ出席シタル議員カ變更改正ヲ贊成ス  
 ルモノ三分ノ二以上ナラサレハ改正スルヲ決スル  
 ヲ得サル者トシ恰カモ米獨ノ憲法改正ヲナスノ場合  
 ニ髣髴タル條規ヲ設ケタルハ彼屢憲法ヲ改正シテ主  
 治者被治者兩ナカラ不測ノ災害ヲ被ムルヲ恐レテナ  
 リ議院法第十三章第六十七條ニ各議院ハ憲法ヲ變更  
 スルノ請願ヲ受クルヲ得ストアリ即チ憲法改正ノ方  
 法ハ單ニ本條第七十三條ノ規定ニ依ルノ一方法ア  
 ルノミハ適當ナリト云フヘシ

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ル

ヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スルヲ得ス

說明 皇室典範ハ素ト皇室ノ事ヲ規定セルモノニシテ  
重モコ寶祚繼承ノ順序等ヲ規定セルモノナレバ吾人  
臣民ノ彼是嘴ヲ容ルヘキモノニアラス故ニ其改正ノ  
如キハ議會ノ決議ヲ經ルヲ要セス然レハ樞密顧問ナ  
ルモノアリ陛下ハ之ニ諮詢シテ事ヲ爲シ賜フモノト  
ス然シテ皇室典範ト雖レ憲法ト矛盾スルヲ得ス從テ  
皇室典範ニ依リテ憲法ヲ變更スルヲ得サルモノトス  
若シ皇室典範ハ議會ノ議ヲ經スシテ之ヲ變更スルヲ  
得テ憲法ハ皇室典範ニヨリテ變更スルヲ得ルモノト  
セハ第七十三條ノ規定ハ虛文徒法ニ屬シテ此ノ憲法

ノ固定憲法タルヲ侵スモノナリ是本條第二項ノ規定  
アル所以ナリ

### 第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ

變更スルヲ得

說明 攝政ハ素ト天皇ノ未丁年又ハ久シキニ亘ルノ故  
障アル時ニ之ヲ天皇ノ近親ニ求メテ置クモノニシテ  
天皇ノ名ヲ以テ大權ヲ行フモノナリ然ルニ憲法ノ變  
更ハ勅命ヲ以テ云々(第七十三條)ノ規定ナレハ特ニ鄭  
重ナラサル可カラス又皇室典範ノ如キハ前ニモ云ヘ  
ル如ク寶祚繼承ノ順序ヲ規定スルモノニシテ攝政ハ  
天皇ノ近親多クハ寶祚ヲ直ニ繼クノ人ナリ若シ夫レ  
攝政ニシテ公明正大至仁至德ナレハ固トヨリ宜シ万

一自ラ一日モ速カニ皇位ニ即カンヲ望ミテ不穩當ニ皇室典範ヲ變更スルヲナキヲ保スヘカラス是攝政ヲ置クノ間ハ皇室典範ヲ變更ス可カラスト爲ス所以ナリ憲法變更ノ如キハ固ト是レ非常ニ鄭重ヲ要スルヲコシテ既ニ陳ヘタル如ク勅命ヲ要スルヲナレハ須ラク天皇政ヲ親ラシ賜フ時ニナスヘキナリ故ニ本條ノ規定アリ

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用非タルニ係ラス此憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ  
 遵守ノ効力ヲ有ス  
 歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

字義 法律命令ノ字義ハ先キニ第九條ヲ説クニ當リテ之ヲ説キタル故今之ヲ略ス規則トハ法律ノ執行若クハ其細則ヲ規定セルモノヲ云フ例ヘハ賣藥規則等ノ如シ元來法律ト規則ノ別ハ殆ド爲シ難ク或ハ法律ト同様ナル規則モアリテ此二者ノ區別ハ各國ノ學者共ニ難シトスル所ナリ

説明 法律規則命令又ハ達、布告、指令等其他何等ノ名稱ヲ以テ發シタルモ此憲法發布前ニ發シタルモノニシテ此憲法ト矛盾抵触セサル現行ノ法令ハ總テ遵ヒ用ユヘキモノナリトス故ニ此憲法ト矛盾スルモノハ總テ消滅ニ歸シタルモノトス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令即チ公

債證書利息及此支拂建築ノ依頼等総テ歳出ノ部ニ  
 屬スルモノニ政府ノ負擔ニ係ル現在ノ契約又ハ命  
 令(支拂方細則等)ハ第六十七條ノ如ク政府ノ同意ナク  
 ノ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルヲ得ズ若シ然  
 ラザレバ或ハ既得ノ權ヲ害セラル、モノアルベク又  
 或ハ折角着手シタル事業ノ水泡ニ屬スルモノモアル  
 ベシ故ニ必ズモ新手ノ議會一隨ニ廢除削減ヲ爲ス  
 ヲ得ズ

契約ナル言ノアルヲ以テ序テニ茲ニ此語ノ意味ヲ略  
 説セン契約トハ一方ノ對手ガ他ノ對手ニ對シ法律上  
 或行爲又ハ避止ヲ爲スノ義務ヲ生スル合意ヲ云フ而  
 ノ契約ノ要素ヲ舉レハ(第一)合意申込及承諾(第二)法式

若クハ約因(第三)對手(第四)合意ノ真正ナルヲ(第五)合意  
 ノ適法ナルヲ(第六)履行シ得ヘキト是ナリ

(第一)合意ハ申込及ビ承諾ヨリ成ル申込トハ他ノ對手  
 ガ或事ヲナスカ又ハ或事ヲナサレルヲ欲スル意旨  
 チ通知スルヲ云フ例ハ甲者ガ乙者ニ若干ノ書物ヲ  
 賣ルヲ希望スルガ如シ承諾トハ申込ヲ受クルノ人  
 其申込ニ應スル所爲ヲ申込人ニ示スヲ云フ例ハ右  
 ノ書物ヲ申込通リニ賣ルガ如シ申込及ビ承諾ニ關ス  
 ル要則左ノ如シ

甲、申込及承諾ハ通知スルヲ要ス其通知ハ必ズシモ  
 言若クハ書面ニ限ラズ所爲ニヨリ之ヲ爲スヲ得即チ  
 手ヲ拍チ頭ヲ振ル等ノ如シ